

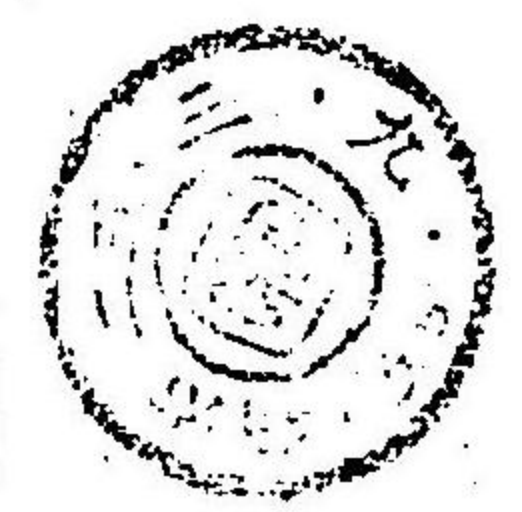
No. 276

SEEK TRUTH
AND DO GOOD.

精神的講話

デフォレスト演說
三宅荒毅譯

明治廿五年三月發兌



緒言

今を距ると五年前在仙台の有志家相計り京都同志社の校長新嶋襄氏に委託して仙台の一の學校を設立し其の基礎を同志社或ハ新英國の大學に等しからんとを希望したり是れ蓋し今日の東華學校ある所以よして此の學校の精神ハ智識の開発と品格の養成と兩つががら並立し學生の教育圓滿からんとを期するも他からざる也

此の主意は本づき學校に徳義思想を盛んせしがため毎週三回生徒一同講堂に會合し教師交るく二三

十分間の講話を爲すと定めたり其の講題ハ一定せざと雖ども學生の裨益とあり其の精神を感動矯正するを以て目的とするよりあり商議員等ハ此の舉を賛成して一つの講堂を建築せられたり而して隔朝の講題ハ頗る廣く諸事を總括し或ハ有名なる政治家、發明家、英雄豪傑、慈善家等の實録、或ハ勉強の良法、時間の用法、徳性養成法、一個人の社會に於ける關係、古今道德學組織の比較、萬國交通の由來、進歩教育ある人々の責任、其他學術の各科を實地に應用して勉強の精神を喚起する等實は枚擧げ暇あらざるなり此の如く如何よしし

て學生は高尚なる目的希望を奮起せしめんとし、思想言行は善良なる習慣を養成し、殊に生涯成功の秘術ハ品格の如何にあるとを示さんとを務めたり
余信は道德ハ宗教を離れても幾分な教訓するを得べしと然ども人ハ本來宗教的動物なり宗教心は意を注がせ或ハ此れを蔑視するの教育ハ只に不完全なるのみからせ大に一個人に社會、政府に損害を來たすことを信じて毫も疑はざる所なり
余ハ又信は學生はして宗教なくして教育を受けたるものハ己れの高尙優美なる本性と終極とを識らざる

べし又正義の生涯を送るゝ高尚なる精神を有する能
 はずを故に余の目的ハ學生として宗教の必用ニ注
 意を促がすにありき余ハ狹隘固執の方法を斥け單ニ
 公平なる道を以て宇宙の全能全智なる神ハ万民の父
 かり而して万民ハ人種を論ぜざ賢愚を分たざ皆を同
 胞の兄弟たるの大眞理を學生ニ教ゆることを務めたり
 嗚呼實ニ此の信仰を抱くものハ從順なる子女となる
 べし親愛ある良夫良妻となるべし善良なる市民とな
 るべし誠實なる父母となるべし何事もよらず義務と
 主義ニ忠實ならしむべし決して宗教を擯斥する輩の

及ぶ所もあらざる也

余ハ自ら東華學校に於て演述したる講話集一篇を發
 行するに當り學生諸君ニ對し諸君が五ヶ年の永き年
 月の間余ニ對し柔順温良かりしを謝せざるを得ざ而
 して此の書を諸君ニ奉呈せんと欲するなり
 學生諸君よ余ハ仙台ニ於て最も快樂なるときハ講堂
 ニ於て諸君ニ話す時ニありき數々旅行するときは
 勉強するときは夢みるときは諸君の容顏ハ眼前ニあ
 り偕ニ送りし日と思ひ出して愉快の感勃々として生
 ぜるなり諸君の内既ニ北ハ北海道より南ハ九州ニ至

るまで離散せるのみならず或は海外に留學せるものも少くしとせざ東西處を異よすると雖ども余ハ諸君よ公義清潔なる品格の尤とも大切なることを忘るゝことを希望して止まざるなり

江湖の教育家等學生等幸よ此の篇を一讀するの勞を惜まざ熟考せられんば著者の幸大なりと謂ふべきなり

明治二十四年 仙台に於て

ゼー、エチ、デホレスト

精神的講話緒言

方今我國を行はるゝ教育の現状を見るよ大よ權衡を失し不満の感なき能はざ智育ハ日月よ進歩して滔々たる大河の流るゝが如く刮目して見るべきハ實に邦家の爲め喜ばざんばあらざ又近來よ至りて頻りよ体育の必要を感じ強操術の普く行はるゝハ至幸と謂つべし夫れ強健なる身体と健全なる智能とハ相並立するものよして其一と欠きて其二を得ると能はざ世の幾多の青年が充分よ智識を發達すると能はざ又自己の才能を活用する能はざる蓋し此の点よ過まる者

少かしとせざ然るも今日の教育社會は於てハ智育と
 体育を兼ね稍々從來の面目を一新したりと雖も尙ほ
 一つの最も重大なる要素を欠ぐるあり何ぞや精神的
 教育是れかり抑も教育の目的ハ活人物を養成するに
 あり社會に尤とも入用なるものも亦此活人物かり只
 に機械的の教育を以て機械的の人を造るにあらざる
 かり必だや精神を發達せしめざるべからざ自己の責
 任を感心せしめざるべらざ堅忍不拔の氣象を涵養
 せざるべらざ進んで宇宙を貫らぬ眞理を悟らし
 めざるべらざるかり此れ通常の教育法を以て達し

得べきよあらざ學問を修め智識を磨く豈に只名利の
 爲めからんや余が敬愛するデホレスト氏此の點に深
 く憂ふる所あり氏が陸の奥に閑らく東華學校に教師
 の任を帯ぶるや茲に五ヶ年其間基督教を以て精神的
 教育を専らよし時々簡單なる講話を以て青年の志氣
 を鞭勵するに盡力せられたり其内ハ傳記あり論說
 あり偶感あり言短にして意切かり本書ハ即ち其の講
 話の十數篇を蒐輯したるものかり敢て江湖に公す
 只に青年の善男淑女に限らざ苟しくも精神上の薰陶
 刺戟を望まるとものハ幸に一讀せられよ其の勞に酬

ゆるの裨益必らば少小よあらざる也云爾

四

明治二十五年二月 譯者 三宅荒毅白

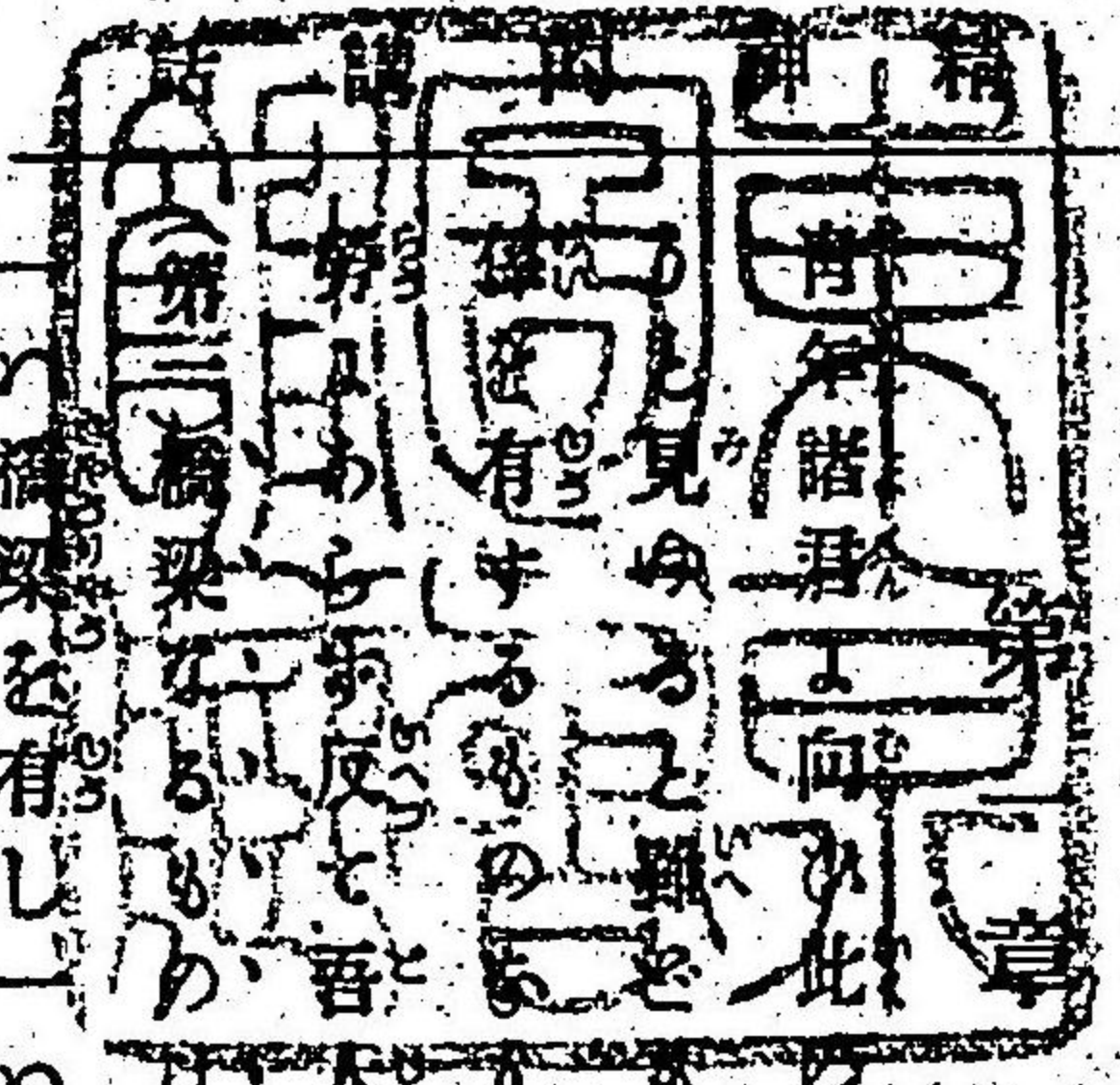
目次

| | | |
|-----|---------------|----|
| 第一章 | 橋 梁 | 一 |
| 第二章 | シスター・ドローラの話 | 九 |
| 第三章 | 金剛石の話 | 二二 |
| 第四章 | 雀の話 | 三〇 |
| 第五章 | ゼオルゲ・ワシントンの小傳 | 三八 |
| 第六章 | 勅語奉讀式の祝詞 | 四七 |
| 第七章 | マユレーの傳 | 五〇 |
| 第八章 | 中村敬宇先生自助論 | 五七 |
| 第九章 | 愛國心 | 六五 |

| | | |
|------|----------|-----|
| 第十章 | 1 am. | 七五 |
| 第十一章 | 運動會 | 八三 |
| 第十二章 | 鴉片戦争と基督教 | 八八 |
| 第十三章 | 仕方が無い | 九九 |
| 第十四章 | 人の相場 | 一〇七 |
| 第十五章 | 教育者の責任 | 一一七 |
| 第十六章 | 視官 | 一三〇 |
| 第十七章 | 世界中英語の勢力 | 一三八 |
| 以上 | | |

精神的講話

ゼー、エナ、デホレスト講演



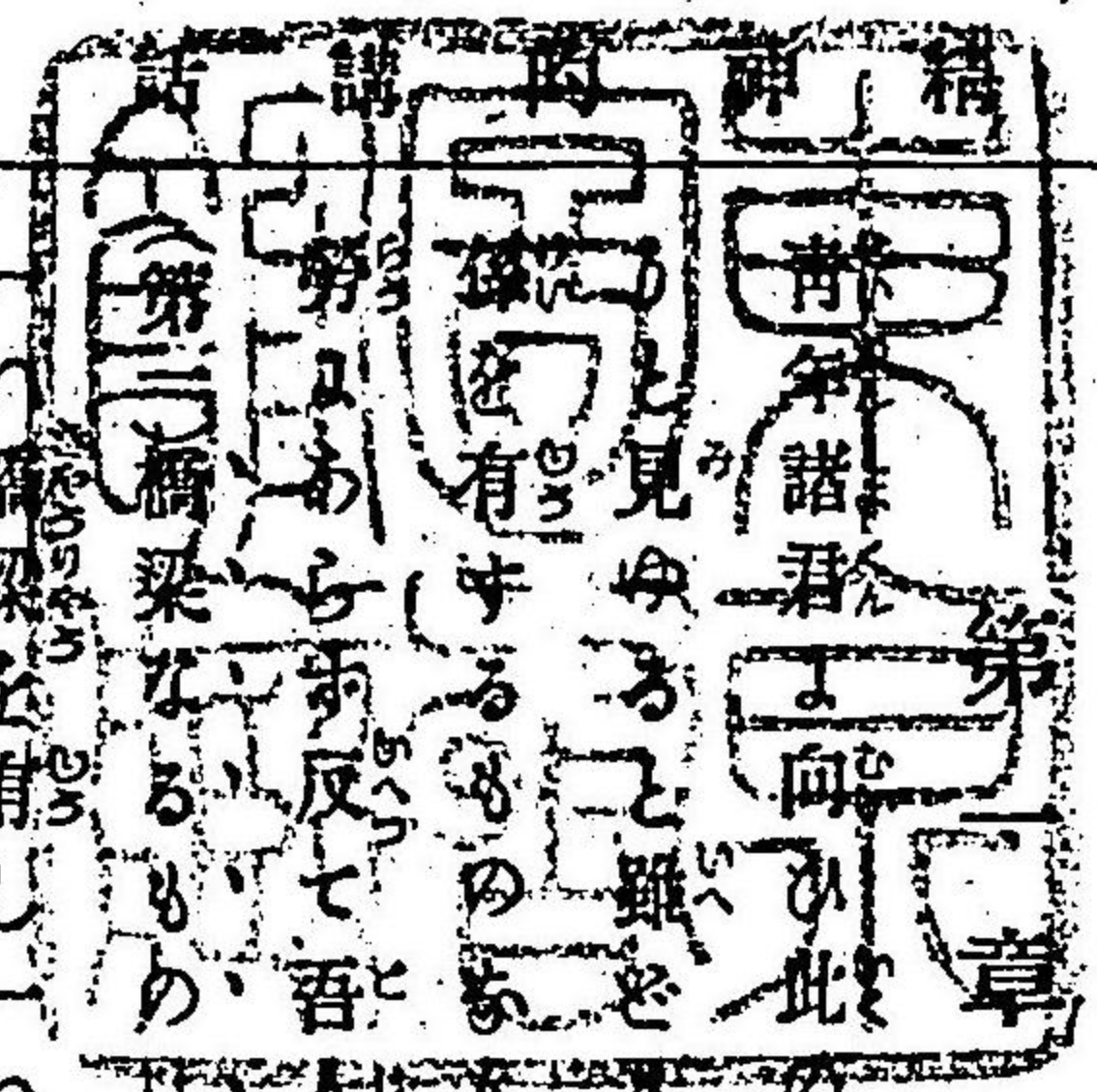
桥梁

如き問題に就き一席の講話を爲すハ或ハ奇妙な
 其の實識者の深思沈慮を促そ大問題ハ密着の關
 故に此の問題ハ關し少時を費やそも敢て無益の
 大の思想を廣濶ならしむるに至らん
 文明に大關係を有す文明國と野蠻國との差別ハ
 此れ無きヤ在りと云も亦可なり近頃有名なるス
 民亞非利加内地旅行より歸りたり彼れ東岸より内地に赴き
 八九百英里の距離を行かんとしたるヨ三ヶ年の星霜を費やせりと又

| | | |
|------|----------|-----|
| 第十章 | I am | 七五 |
| 第十一章 | 運動會 | 八三 |
| 第十二章 | 鴉片戦争と基督教 | 八八 |
| 第十三章 | 仕方が無い | 九九 |
| 第十四章 | 人の相場 | 一〇七 |
| 第十五章 | 教育者の責任 | 一一七 |
| 第十六章 | 視官 | 一三〇 |
| 第十七章 | 世界中英語の勢力 | 一三八 |
| 以上 | | |

精神的講話

ゼー、エチ、デホレスト講演



第二章 橋梁

如き問題に就き一席の講話を爲すの或の奇妙な
 其の實識者の深思沈慮を促そ大問題に密着の關
 故に此の問題に關し少時を費やそも敢て無益の
 人の思想を廣潤ならしむるに至らん
 文明に大關係を有す文明國と野蠻國との差別の
 此れ無きま在りと云も亦可なり近頃有名なるス
 一、橋梁を有し一、内地旅行より歸りたり彼れ東岸より内地に赴き
 八九百英里の距離を行かんとしたるま三ヶ年の星霜を費やせりと又

或る所よ於て森林櫛比し百七十英里よ五ヶ月を要したり亞非利加よ於てハ橋梁亦し故よ學校なく制度法律なく安全ある政府もなきあり橋なきが故に野蠻國なり此れよ反して歐洲各國を見よ至る所河あれハ必ず橋あり八九百英里の遠きハ二三日よして往來すべし亞非利加よて三年を要する所も歐洲よてハ僅々二三日よして達そべし此等無數の壯大なる架橋を見て吾人云ふ此等の國々よハ大中小學校あり制法あり大都あり文明よ進歩せりと

橋梁の文明よ欠くべからず橋梁の歴史を檢して明らかよ文明の程度階梯を見るべし太古よ於てハ橋梁ある物全く無く河流ハ自然の境界よして種族土人の敢て此れを渡るの意なく彼岸よハ敵あり双方互よ相恐れ交通するを欲せざりし然れども種族強大勇悍なるよ及んでハ彼或ハ粗造なる小船よ乘じて河流を横ぎり勝利を占めんとす既に彼

方を制服するよ至りてハ始めて橋梁の必用を悟る故よ最初橋梁架設ハ其國強大進歩する兆候よして今余三つの適例を左よ述べん

(甲)英國ハ小國よして日本の半よ過ぎず然るよ千三百年前よ於てハ其國無數の小王國よ分烈し或史家の七つの獨立王國ありたりと云へり而して互ひよ相争闘するを以て務とせり紀元五百九十七年の英國を示す地圖を見るよ此れ等の王國ハ悉く川河よ由りて分界せられたると明かなり當時橋梁全く無きよあらずと雖ども名稱するよ足る者一つも無しと云ふも誣言よあらざる也其の文明の程度容易よ判定するを得べし今日の英國を見よ至る所河よ架するよ鉄橋あり石橋あり以て國民を中央政府よ聯絡團結せり是れ即ち英國國民の達したる文明の明瞭なる看板なりと云ふべし

(乙)百年以前歐洲ハ多數の微少國よ分烈し三百の君王各々政法軍營宮

殿を異よし常々争闘を事とし民を苦めたり學校ありしと雖も振の
 ず橋梁ありしと雖も其の一方は於ての必を城郭亢立して敵の進入
 を護衛したる有様なり然れども今や全歐洲の無敵の宏大なる橋梁
 は因りて一つは聯絡し國王の冠を戴く者僅かに指を屈するのみ教化
 普く制度自由に至る迄遙か十八世期の右に出で以太利一致國獨乙
 聯邦等の言の大なる幸福を示し橋梁の其の看板たる也

(丙)日本國は於ても往古多くの壯大なる城砦ありて其の時代は於ての
 僅かの粗造なる橋梁ありたるのみ當時文明の因て來る學術上の智識
 は乏しかりしが今や何くの所にも橋梁ありて皆學術上の理法を基
 き以て三千九百有餘万の日本人民を一國民に聚絡團結し一定の教育
 法一つの立憲政体の下よ來らしむ

斯くの如く橋梁を知るの文明を知ると同一なり南亞米利加にの多數

の美橋あるや支那は於ての如何合衆國魯西亞等も於ての如何此れ等
 の問題に答辭を與ふる者の其れ等の國々の教育の程度制度文明の模
 樣如何を知る者なり吾等今橋梁を區別して五級とす

(A) 木橋此れ尤とも安値にして淺河狹流に架し數理は暗き民の構造よ
 成る之れ文明の曙の兆候なり

(B) 石橋此れ狹少ある弓形にして文明は一層の進歩を表し障害物に勝
 つて能力の發達を示し種族變じて一國民を組織せるを証する也

(C) 石橋此れ大弓形にして數理の大進歩を顯し五六十尺の弓形より二
 百余尺の大弓形の構造の智識の大進歩と社會の改良を示すの一證也

(D) 畢は鉄橋の時代とあり十八世期に於ては英國は一つの鉄橋は其弓
 形二百四十尺に達せり此れ國民進歩を表證するに足る

(E) 學術上尤上の進歩を示し諸大國民の勢力と結合を表する一種の橋

の即ち架空橋あり此れより余が第二の思想に移らんとす
 (第二橋梁の殊に数学の關係す多數の學生輩の数学を好まず然れど
 も十九世期の文明の此科の進歩は原因するを知りたらんか此の學
 を出精勉強するもの多かるべし数学の進歩は又百種の機關工業の進
 歩即ち鉄道瀟船鉄石造りの家屋壯大なる橋梁等の設立を示すと云も
 實は過言にあらず近時の数学あらざればニユーロップの
 間の架橋の見るに能はざりしならん其の非常なる大鍵綱其長さ(二石
 間)千六百尺其二個の石柱水上三百尺水底八十尺の深きに至る豈巨大
 の工事あらずや数学は由されば工学技師等の此橋六千七百噸(千三百
 万ポンド)の鉄を支へ其の重量の七倍を持堪ゆることを知る能はず数学よ
 らざれば高く空中に懸へ如何なる巨大の船舶も自在に其の下を通行
 するを得る大橋を打つ大風暴雨の勢力を計算すると能はず数学よ

らざれば鋼鉄鍵鎖は冬に於て十五インチ収縮して橋梁の中央二尺半
 を高くし夏の光熱の爲め伸長するを知ると能はず只近時の如き進歩
 の世に於て始めて斯る鴻事業の成就せらるゝを見るなり数学の理よ
 由りて二條の鉄道二條の車道及び廣潤なる一條の人道高く空中に在
 り深く且つ大なる海水を横ざりて平地を歩行するの念を抱かしむる
 と能はず数学よよりて此橋十五年の星霜を費やし九百万弗を要する
 を知るとを得たり
 又往古の石橋と比して架空橋の永久保存及び便益無双なるを見て再
 び数学の力を悟る歐洲に於て重大なる石橋を一河に架するよあたり
 其構造百五十年を要せり同河に架するよ近年美麗堅牢なる架空橋を
 造りたるよ僅か三年よして成れり今や日新の文明に際し學ぶ所又速
 かよして五十年を出でずして太古の人五百年の齡を重ぬるも尙は見

聞せざる事を知るとを得べし
 (第三)橋梁の大い徳義宗教の關係を有す七年前以上陳述したる大橋の落成せるや二人の演説家集まりたる大衆の市民に祝賀の演説を爲せり其の一人のニユーヨルク市長として他の一人のブルツクリンの有名なる説教者なりき各々橋梁たる者の地への平和人への恵あるの記号なりと云へり基督の生れ給ふや此れ多くの天軍の讚美せる言あり此の基督教の傳播する處其の愛の教行のる、處には種族の變じて國民を組織し橋梁彼等を聯絡して終に四海皆兄弟姉妹たるに至らしむ國民互に相信用し親密誠實なるに至らしむ吾等今橋梁時代を生る是れ即ち四海同胞たるの情増長するの時代なり若し國民を互に相結合する橋梁の悉く破滅せらるゝとあらば吾等往古の野蠻界に復籍すると疑ひなし今や全世界の基督より始めて來る平和と恩寵の愈増

さんとそるを見るなり

第二章 「シスター、ドロー」の話

茲に「シスター、ドロー」と題する一書あり紀元一千八百七十八年於て四十六歳の齡を一期として此世を去りにし英國一婦人の傳を録すものなり該婦の死後尙二年を出でざるに其一小書の英國に於て六版米國に於て四版を出すに至りたるは以て彼の婦人の凡人にあらざりしを示すと云ふべし聊か今其の畧傳を陳述するの可否に此一篇を一讀して而して後識るべし

「ドロー」は紀元一千八百三十二年に生る家十二人の兄弟姉妹あり幼時の病弱學志を得ず然れども精神快活見聞する處博し特愛憐の氣風に勝れ近隣の貧兒と深く同感同情とあり己れの食物の一部分或は全部を與ふると數々なり両親も其子の美性を養ふ尤も良き

十
 とと思ひ己れを犠牲とするを獎勵せり「ドーラ」の二十歳の妙齡は達
 し身の丈け高き美婦人とはされり其の談話爽快にして老幼男女を問
 はず彼れは聞くもの皆な笑を合まざるのなし故に名聲頗る高し父は
 異名して日向と呼べり其の親愛ある性質此の如し
 此の如き婦人の容易に他人の妻となるを得ると雖も「シヌマード」
 「ラ」の嫁するを好まず三十才になるに及んで學校の教師とされり其
 の如何ある人物と發達せんとせるを示す一話あり彼女の茅屋は淋し
 く暮らし偏陋の田舎なれば隣人とても遠く離れ且つ少なし或日一人
 の貧乏して重き病の床に臥すると聞き學校の歸途其の貧家に立寄れ
 り病人の親戚朋友の無きと聞き深更に至るまで懇切に介抱看病し
 彼れの苦痛を忘れ心は慰めを與へんと力を盡したれども終に墓なく
 死してけり故に不已得暗き小道を歩みつゝ、獨り家路を指して歸りし

十一
 其の家は近づき見れば豈計らん燈火内は輝けり不思議と能く見る
 盜賊の家具を竊み去らんとする有様なるよど通常の婦人なれば斯
 る驚々たる僻地に於て夜中盜賊を見たらんに或の逃げ或の叫び戦
 慄すべき「ドーラ」の然らず大胆にも戸を開きて徐々と内へ進入りし
 り賊も大に驚き窓より逃走したりと嗚呼勇と愛此の二美德未だ幼年
 の時より著るしく現はれたり
 當時「メリシヤ」戦争ありて英佛の魯と戦ひ彼れが南方境土を侵奪し「コ
 ノスマン」ナノ「プル」を領せんとするを防禦せんとせり英兵の「コンラ」
 病及び他の傳染病の爲め非常な苦められ暫時にして二万四千人の兵
 卒死するに至れり熱練なる看護婦の不足の數千の精兵死亡の原因か
 りき此時彼の有名なる「フロレンス」ナイチンゲール」の進んで病者疵人
 の看護に身を委ねんとを請願しければ英政府は此の婦人を見看護部の

總督全權を托したり而して此の婦人の美譽は今日赤十字社の因て起る所なり「ドイラ」の「ナイチンゲール」の勇ましき實例に勵まされ自ら「クリメア」に赴き兵卒を看護せんと父は請ふて許を求めたれども得ず故にワルセールの病院に於て看護婦たらんと決したり

ワルセールの六万人の人口を有する市街にしてウエールスの東より礦山石炭坑に近し英國の石炭坑の其國政兵富強の一原因あり坑夫は頗る注意を要するものにして甚だ危険なる業あり毎年此れが爲め火事破烈及び不意の變より殺害せらるゝもの千余人傷を受くるもの數千人故にワルセールに於ては市立病院の設あり其内二十八个の寢床ありて「シスタードイラ」は此處に看護婦と撰まれり同女は只看護するを好むのみならず能く醫師の切斷療法を注意し獨り自ら療治を行はんとを勉めたり自ら謂へらく斯る働きの多分婦人の能くす

る所にして男子は優れり蓋し愛憐の情殊に切なればありと「ドイラ」の進歩頗る速かゝ外科術は巧みなり手足切斷術等も於て大に醫師の助手とはなれり一日一少年の病院に馳せ來るあり血の迸る其手を延ばし叫びて曰「シスタードイラ」よ私の一指を切り落したりと女靜かよ答へて何處も其れを置きたるやと問へり兒曰宅に残し置きたり女大に叱して曰愚かある兒よ速かゝ馳せ歸りて其指を持來れと兒急ぎ直ちも落ちたる指を持來りければ女此を縫ひたり其巧妙なる手術は筋骨共に前の如く愈へたるを以て知るべし

惟ふ此婦人の事業を了知せんよの假りに今三ヶ餘も分つて學ぶを良しとす

第一婦人の働きの難大なる者あり此處に二十八人の病人の甚だしく負傷して或は寢床を出づると能はず然るは婦人の一日兩三度も一

々傷口を洗ひ相當の療治を施し或の臥單を敷き替へる爲めに病人を抱き上げる等容易なる働きもあらず此外時として一日は五十人の礦夫が來院するとありて少しの傷疵を縫ひ且つ療治を求むるとあり故に婦人の數々食物を喫せざるの時もなく或の負傷者の苦痛發熱の徹夜の看病を要するとあり時として病人中夜半に死するとあり其の時よ於ては婦人自ら索を以て死人を己れの身よ縛付けて此れを外室よ運べり友人等も其の働き方非常な甚だしきを見起寢を定めんとを勸む然れども婦人笑ふて曰十日よ一夜の休息の妾よ満足を與ふと第二病院働きの非常な汚穢不潔なるものなり一日十二人の者鉄を溶解する際釜甕破裂し白火の如き鉄の雨の如く十二人よ降り散りたり焼傷の苦痛何かの以て堪ゆべき皆々飛んで水中よ沈み或の狂氣したるもの、如く四方よ馳せ廻り目も當てられぬ苦みよ人々手早く

不幸者を助けて病院よ連れ來りしユシスマードーラは直ちに全身全力を盡して彼等の惨狀を救はんとせり抑も火傷の如き嫌惡すべき醜氣を呈するものなし今十二人の傷者の頭より足に至るまで全身火傷し臭氣鼻を穿ら醫者も堪ゆべからざる程也然るユードーラ婦人の此の不潔なる働きよ汲々として療養看護し十日の間晝夜衣服を變ずるとなく臥床に就くとなくして力を盡したり他の婦人等も此の變を聞くや直ちよ助を與へんとて馳せ來る然れども門前に達するや否や臭氣甚だしく其一人の嘔吐を催したり二三人の婦人の漸く入り來り働かんと勉められども漸々十分時を出して病氣の如く疲勞して終に留まると能はざりしユスマードーラ活潑にして毎日毎夜少しも休息することなく傷者を巡廻し親切なる言葉を以て一人づ、此らの重傷重苦より死去せるものを慰めたり只生存したるものは二人ありき而して

「ドーラ」の親愛才力及び身を犠牲とせる美行の英國に普く稱賛する所となれり

第三彼れの働きの熱心なる愛より出でし者也。此婦人の深き愛心より流れ出する物語を讀むの涙は袖を濡さざるはあし醫者及び政府の注意も係らず天然痘の流行したるとあり礦夫等も多く此の病に感染したり傳染の恐れあるを以て政府の直ちに避病院を設けたれども貧民等の彼處へ行くと拒みたり蓋し彼處へ行かば必ず死すべしと思ひたれば也或る場合於て此の病變じて一層危険なる黒痘となれり然れども此病の尤も危険なるものなれば誰れ一人も看病人となるものなく又病人等を勤めて避病院へ行かしむると能はず斯る困難なる時と際し「シスマー」ドーラの自ら奮ふて市役所に乞ひ看病人たらんとを求む役所於ての大満悦して直ち之れを許可したり此事

市民は知れるや否や病者の悉く喜んで避病院に赴きければ暫時にして病人彼處に充滿せり万事の彼婦人の手に委託せらるる醫師病人及び市民に至るまで「ドーラ」を信愛せざるのなし一夜黒痘は罹り一人の死せんとするや皮膚破れて全身より臭汗滴る其様名状をべからず苦痛の内は叫んで曰「シスマー」ドーラよ只一事の願ぎごとあり請吾れも接吻せよと此の婦人の直ち不潔なる病人を抱き上げ己れの兄弟の如く其の願ふ如くなしたり

此の婦人の己れの生命を危くして無数の生命を救ひたり或の最早病人の死せんとする時も己れの口を彼れの口と接し其の弱り果てたる肺に氣を吹込み再び呼吸するの氣力を興へたとあり又或時の小女の「チフテリア」病にて死せんとする時氣管の毒物の充塞する處となりたり故に氣管を療治を施し細管を挿入して呼吸を助けざるを得ず

然るに醫師が氣管を切り開くや否や「ドーラ」の己れの口を傷口に接し
 津を悉く吸ひ取りたり素より此れを吐き出したれども劇毒ありしか
 ば婦人の此れが爲め三週間病みたり
 斯の如く六ヶ月間の此の病院に滞在し友人は出會するとなし身体を
 休息するとさく晝の終日夜も夜もすがら危篤ある病者を看護し其の
 懇親なる言の病者を慰め其の現在入院患者の大幸なりき
 「ドーラ」婦人の深き愛心の神より來れり斯る慈善の働きを爲したるも
 只此の愛よれり彼れ自ら云へり己れの病人に接し傷痍を治せんと
 する前には必ず神に黙禱して力のおらん限り盡すべき智識と耐忍と
 愛心を願へりと然れども只よ心中私かよ祈るのみならず朝夕必ず患
 者と共に祈れり又夜半病人を慰めんため寢室を巡視する際數々止ま
 り此處彼處の寢床に跪き助けと能力を神に求めるとを常とせり

今數葉の紙上よ於て此婦人の大事業の百分一をも言ひ盡す能はず委
 しく知らんと欲する人の英書よ就きて學ぶべし然れども前も陳べた
 る事柄は以て此の婦人の性質を見るに足る即ち獨立心勇氣熱心耐忍
 克己頓智の美性の赫々として一事一物に顯はる而して此等の美德の
 上よ出で且つ基となるもの尤大の徳即ち愛なりき
 此婦人の凡ての人を愛したれば又凡ての人よ愛せらる殊に己れの力
 を盡して生命を救ひたるもの又日々教訓徳行を以て罪惡の生涯よ
 り救ひ出したる人々の一層優りて「ドーラ」を愛せり多くの人々の遠路
 を厭はずして此の有名なる病院を訪問し且「ドーラ」が人物を見んと
 せり嘗て救助を受けたる貧民共の二百五十弗の大金を集めて此の婦
 人の爲めに馬と馬車を購ひたるとあり婦人の此の贈物を受け却て迷
 惑したるもの、如く素より乘馬車行は好む所なれども時なきを以て

如何にせやと心配したり然れども直ち其の用法を思ひ付き病起人の爲め使用することなし日々其馬車の病衰弱なる人慰と樂みを與ふるに至れり

「ドーラ婦人の四十六才の齡に於て死せり其將さゝ死せんとするや親友知己を卻け只一人て死し他人の見るを願ひざりしを以ても其の獨立心の確固なるを知るべし此の如く彼れの獨りて死せりされども獨りあるよあらず教主の死陰の谷を過ぐるときも彼れに慰め與へたれば也

西洋諸國に於て送葬の時一の兩頭曳の馬車にて棺を送るの風なり然れども「ドーラ」の死に當て嘗て彼れの療養厚情を受けたるもの此れを承知せず十有八人の者自ら棺を負擔して墓地に至れり市長有志家に至るまで皆送葬したり

「シスター・ドーラ」の今も尙は數千人の心底に生きて無言の説教を以て婦人等を奨励せり蓋し彼れと同一轍なる働を爲すべしと云ふよあらず只各々天賦の事業を能く實直に成就すべきを教ゆる也

附言 久野正香氏の譯書看婦美談の此婦人の傳記なり一讀せられなば如何なる婦人にも有益且つ非常ある奨励する處あらんと信ず幸に購讀せよ

第三章 金剛石の話

世人の尤とも貴重し且つ高價なるもの金剛石なり鉛筆の尖端の如き一小片も二百弗の價値を有す其透明にして稀有なるが故に飾物の内尤とも賞美され王公貴人の冠も此れを以て裝飾せらる彼の有名なる「ナポレオン」の劔柄は八十萬圓の價値を以て飾られたり世

二十二
界は於て最も名高きものは(コヒノール)光の山の意と稱して今英國女王
王ピクトリアの冠はあり其の大さ大約を通常鶏卵の半よりも及ばざる
なり

維令金剛石は此の如く美麗にして且つ貴重せらるゝと雖も尙ほ一
層人間社會は要するものあり即ち金剛石の他種にして日々言ふべ
からざるの福祉利益を我等は與へ若し此れなかりせば恐らく文明開
化に進歩すると難からるべし此れは彼の「ナボレオン」の斂柄もある金
剛石と同質にして石炭是れなり蓋し石炭と稱するを以て其の非常な
る價值あるを思はざる人多し米國合衆國の西方諸州は於て石炭を
黒金剛石と稱す一つの其の炭素質なるが故又一つは十九世の文明
進歩の一大原因あるが故なり故に暫らく此れを考究するは衆人の益
たるや疑ひなし

第一黒金剛石と勞働の關係 石炭二三パウンドの價六厘あり此れを變
じて蒸氣とせよ其の力の一人して一日は爲し得べき働を容易に爲そ
べし一噸即ち二千「パウンド」の石炭は一千人の働を爲すべし而して其
價僅々六圓あり然るに一千人一日の勞働は二十錢づゝと定むるも二
百圓の高額とあるなり此の石炭を變じて勞働となすといふ今日全世界
に於て行はる大なる製造場ありて毎年五千万對の靴を造り數百萬ヤ
ルトの綿布毛布を編織し吾人日用の時計を製し數万卷の書籍を出版
し新聞雜誌を世に公布し方國海陸軍の武器を製造し家庭は日用なる
針及び縫物器械を造り其他現時の無数の發明等此れらの出來得るゆ
へんのもの他なし只黒金剛石が勞働と變せられ東西諸國の勞働人
が一ヶ年を爲すべきことを僅か一日間を爲し遂げ得るが故なり石炭の
人の勞働力を二三百倍となしたり例へば彼の巨大なる蒸氣船を見よ

風雨を厭はず波浪を侵して茫々たる大海を横過し一時間十八英里の速力を以て進行するを得るなり此の如き蒸氣船の一日は四十噸より百二十五噸の石炭を費やし五十人より百人のもの万事を指揮せり今假り石炭なしとせよ斯く容易に蒸氣機關の成就すると同様なる船の進行を見んよの日夜間斷なく四万人乃至十万人を要すべし蒸氣船に乗じて航海するもの黒金剛石の功用を實し思ふもの少かき女王ピクトリアの冠ある金剛石の只其の美麗光耀よりて人目を喜ばすのみなり世界製造場の働をなす能はず社會進歩の一助ともある能ざるなり

第二内國及萬國の交通商賈及び文明上必要あるものなり 大川巨流架する鉄橋も石炭なくんば構築する能はず而して此れ等の橋梁なくんば交通の道絶ち商賈不便を感すべし石炭なくんば世界の鉄道敷

設する能はず蓋し石炭鑛鉄爐ありて始めて鉄路を鑄造すべければ也數多の都會の鐵道の輻輳する所而して其線路の恰かも蜘蛛の網の如し實に鐵道の地球の帶となり鐵紐を以て万國民を結合し交通不斷ならしめたり然りと雖も一朝石炭の供給止むと今日の開明の忽ち變じて祖先の時と等しき蠻風も立ち返るべし又石炭のあるありて蒸氣船の進行するのみならず又其の構造せらるゝを得るなり

二十年前シユールズヴォルソンの愉快なる一小説を著しせり八十日間世界一週と稱す當時斯の如く容易に世界を一週するとの恰も夢の如く思はれたり然るに今日に於て六十五日より七十日の猶豫を得れば恙なく一週するを得べし故に今日より二十年以後に住む人の或は四十日を出でずして英京龍動し往復するを得るに至るべし彼の「ブラザール」國が一朝共和國となるや翌日直ち万國の新紙上に其

の事公けにされり何故と斯く速かき通報を得るや素より電信線のあ
 るに由ると雖も石炭なくんば全地を架設せる鐵線を造る能はず此
 の如く橋梁鐵道汽船電線万事皆石炭あるによれり若し石炭の盡くる
 とあらば今日の文明を維持すると能はざる也
 第三國家の富強は多く二事より由來す一人民の智徳二石炭の供給是れ
 なり英國の今日大勢力あるは此の二元素を有するが故なり地質學上
 の地圖を一覽するより一石炭層ありて年々一億三千五百万噸を掘出
 せり英國の一小島にして其の面積日本の一半なり即ち五万八千方英
 里にして其十分の一の石炭は富み世界最良の質ありと云ふ合衆國
 於ては二ヶ處の石炭層あり各々大英國の倍にして六万方英里に達し
 年々費やす處の一億噸の多量に上れり若し英米に於て毎年費やす所の
 石炭を以て高さ八十呎幅四十八呎の壁を築かんは大阪より仙台に達

すべし
 第四石炭は此の如く國民の富強を卜する一大元素なり左の畧表の「エ
 ン」オイクロヒデアブリクニカ」最近版より採算する所あれば或は有益
 なるべし

| | | | | |
|-----|-------|------------|-------|----------|
| 合衆國 | 石炭層面積 | 十九万一千二百万方哩 | 年々掘出高 | 一億噸 |
| 英國 | 全上 | 五千四百万方哩 | 全上 | 一億三千五百万噸 |
| 西班牙 | 全上 | 三千五百万方哩 | 全上 | 不詳 |
| 佛蘭西 | 全上 | 二千二百万方哩 | 全上 | 一千七百万噸 |
| 日耳曼 | 全上 | 三千六百万方哩 | 全上 | 三千八百万噸 |

又曰以太利に於ては其半島に於て少しも石炭あるなし此れ以太利繁
 榮の障害なるべし又魯西亞に於ては石炭質層三ヶ所あり其内一の一
 万六千万哩に達せりと

日本の地質調査の上其の圖面の世に公となり北海道破山の面積明かなるに至りて日本の富万國に普く知らるゝに至らん

第五茲に最も重要な問題の存するあり曰く若し年々數百萬噸の石炭消耗せらるゝとき此等の石炭坑の永く供給するを得べきかと今より十五六年前此問題の英國々會に於て討論せられたるにあり其時の計算によれば大凡そ百年にして悉く石炭坑を盡すべしと地質學者の説の合衆國の大石炭坑も三四百年にして空しくあるべしと他の學者の説によれば今日獨乙國にある石炭坑の當時消耗の割合にて尙は二千年も續くべしと若し世界石炭の供給盡くるとあるからば其代用となるもの發見せられざるべからず然らざれば文明の進歩絶止すべし幸として今や電氣力の作用大に利用せられ人事に使用して漢大なる働を爲さんとそ既に電氣車も發明されたれば十九世を過ぎず

して電氣の各國の鐵道に於て石炭の代用となり其巨大なる量を省き今日急行の列車よりも一層迅速に旅客を運ぶに至るべし

第六時來りて人々最早黒金剛石を掘出さんため暗坑も出入するの用なきに至らば實に幸ありと云ふべし然れども此の不健康なる勞働の必要ある限りの宜しく吾人の爲め危険なる仕事に従役する人々を思ふべし英國に於て何年々坑山の働は伴ふ災難あり注意に注意を加ふると雖も破烈土崩機關等のため傷害せらるゝもの數知れず其平均の一千人を下らす此の如く死に陥るもの、外他も手足を失ひ骨を碎くもの幾百千あるを知らず朝に妻子を別れ坑に入り遂に再び歸らざるものあり

第七何れの時此の黒石炭の生じたるか答へて云ふ人多分の古昔石炭時代に於て生じたりと又木炭と稱する地層ありて人類代以前に生

じたるものあり此等は今より三百万年前より始まり石炭の少くとも
一千万年前後のものなるべし

第四章 雀の話

二羽の雀の一錢にて售るゝあらずや然るゝ汝等の父の許さくば其一
羽も地も墜つるとなし(馬太傳十章二十九節)
雀は其價錢を以て算する時の僅か一錢に足らずと雖ども万國民の母
重する智慧を以て算するときは殆んど言顯の才能のさるは也此の
小鳥の何を吾人に教ゆるかの餘り重大からざる問題の如く見ゆると
雖ども深く考究するゝ従ふて吾人の歎稱を來たし遂に揚言して此鳥
よして何をか教へざるとあらん惟ふゝ世の大中学校に於て學べるゝ
万事を教へ得ると云ふゝ至るべし

先づ其の飛揚力の尤とも奇妙なるものなり數多の小兒等が鳥の飛揚
自在なるを見て何故に斯く飛ぶかを怪み己れも羽翼あらんとを欲す
若し人皆羽翼を持つゝ至らば如何なる大變動を社會政治に來たすや
計るべからず竊盜罪人の外國に後を隠すべし大砲の達せざる空中に
戦争を開くべし砲兵騎兵軍艦も無益に屬すべし不具病人の外に車馬
も乘らざるべし蓋し飛揚すると迅速に且つ低價なれば也實に人皆な
飛ぶべくば恐らくの文明に進歩せるとあらざりしならん而して人皆
な鳥類の如く生活なしたるべし空の鳥を見よ蒔くとなく獲るとなく
倉に貯ふるとなし(馬太六章二十六節)然らば悉く懶惰ある者と墮落し
建築耕作等の先見なき不注意ある動物となりぬべし
然りと雖ども古昔より人々鳥類に飛揚の力あるを羨めり大古神話中
よも曰テメロス及び其子イカルス囚人とかり地中海の一小嶋に流さ

る其處より二人のものの多しの鳥羽を集合し羽翼の二對を發明し木片
 は臘を以て此れを貼したり二人のものの四年の身より脱走するを得
 て大に喜び「イカルス」の喜悦の余り高く飛び上り大陽に近づきたるを
 以て臘溶け翼離れ海中に落ちて溺死したり然れども其父の低く飛び
 たるを以て恙なく自由の地に達せりと爾來人々飛揚器械を發明せん
 と企てたると數々あり當時英佛米澳諸國の發明家の學理より原づき風
 雨を恐れず荷物旅客を容易く乗せて飛ぶ器械を造らんと心膽を勞し
 居れり近時或る英人の三十六方呎の小さきものを作り此れは一小蒸
 氣機關を加へて全体僅か十二三パウンドの重量なりき素より完備し
 たるものにあらずと雖ども獎勵の爲め五百弗の賞金を得たりと
 然れども小鳥の羽翼の如き能力と砂巧を有する器械を製造せんよ
 左の諸學の博識を要す

(一) 數學 最も輕くして頗る堅き器械を構造するよの數學上の尤も奥
 妙なる原理を要す
 (二) 器械學 各節能く釣合ひ共に運動するためよの器械學理より通達せ
 ざるべからず
 (三) 物理學 運動法重力法固形液体氣體の法則并に熱の法を熟知する
 を要す物理學有名なる學者の英人チンダル氏にして運動法に於ける
 妙理を發見したり然れども其智識は世の發明家をして雀の優美迅速
 なる運動に類似するを得せしむる器械を構造せしむること能はざる
 なり
 (四) 雀の尙ほ吾人に教ゆるとあり即ち羽翼と筋肉の相違は如何其の嘴
 と小舌との相違如何化學より羽翼嘴及び筋肉の元素を知る然れど
 も全世界大學校に於ける化學上の智識も一個の羽を作るに能はざる

也
 (五)解剖學(六)生理學等の頗る注目を催す學問として万國民に大幸を來たせり然れども此の小鳥の組織を了解し五管肺臟心臓等の作用を知らんとせば此の二部の學を講せざるべからずされども世界尤とも有名なる生理學者も此の小鳥に於ける奧妙の只一部を明かに爲し得る而已
 (七)体中に見られたる智慧を見るときは稍々雀の如き一小鳥をも重んぜるに至れり然れども尙一層委しく知らんと欲せば學術中尤とも困難なる動物學を研究せざるべからず世の生動物の充満する處古昔より思慮ある人の法則に原づきて動物を各階級に區別せんと試みたり如何程困難なる學術なるかを知らんとせば「アガシー」氏 Methods of Study マニカ中動物學と題する一節を讀むべし又「アガシー」氏 Methods of Study

In Natural Historyを一讀せよ万有の奧妙を研究せんには天然學者が數世の勞を要したるを見るべし終に人類鳥類魚類匄類皆な同階級なるに明かにあるに至れり此の雀と吾等の共々意匠組織に於て同一にして此の一羽の雀を識るの即ち古今學術家の研究して尙は明瞭にする能はざる所を識る也
 (八)地質學太古鳥類の未だ生存せざる時あり又人類の創造せられざる以前に於て鳥類の海陸に飛揚せり雀の何れの時始めて現出したるや幾百万年の古昔よりありしや魚類の現出前あるや或の後なるや其生存したる形跡の石炭地代の石層中に發見せらる、や將た又爬行動物時代に見らる、や又は哺乳獸類の地上に蕃殖したるときは發生したるや此等無數の問題の觀察力ある人々の胸中に浮ぶものにして只一羽の雀の因て生ぜしむる所也

(九)地理學も亦此一小鳥中に隠れたる沙智を研究せんと欲する人の識らざるべからざるもの也蓋し其の生存し得る處と得ざる處あれば也地球を圍繞する一帶ありて其處も無形の境界より此の小鳥の存在制限せらる此の限界を知る人の万国地圖上にある各國を知らざるべからず

(十)哲理学以上記載したる九學科は充分研究せるもの甚だ難かるべし然れども哲理学は猶は一層困難なるもの也如何となれば尤も神妙なる生命に關し形体なければ五官も分別すると能はず此妙なる生命と何ぞや世界の博識者中誰が生命を説明するものぞ無數の學者の此れが説明を試みたり其の結果の著書中に出でたり然れども満足を與ふるものあるなし又此一小頭に生イオンナは足らざる腦あり然して其處に本能を稱する他の奥妙あり此の本能よりて其地理上の分界

を知り巢を構造する場處と方法を辨へり實に此の一小鳥に關して大學者も未だ發明せざる所數多あり世の大學に於て教へらる、万づの學問の此の一小鳥は輻輳す故に小宇宙との稱せらる故に此の鳥を創造せんは吾人の生活する地球或は諸遊星に光を與ふ太陽を造ると等しき智慧と智識を要せり否か尙は優れるの智と能を要す蓋し鳥の地球太陽と異なり生命を有すれば也

今や全世界の學者も決して一小鳥否を嘴又の骨をも造ると能はざるや明かなり其の体への高妙なる智慧の現れたるあり然れども鳥の人類の如く貴きよあらず其の造物者知らざればかり人類の此の奥妙なる能力即ち原因結果の知識を有せり鳥の吾人を見るされども其腦中も理性を有せず此人を造りし者は誰ぞやと考ふる能はず人の鳥を見て其羽翼筋骨口嘴及び腦髓等に隠れたる限りなき智慧を發見そ

而して人の直ち云ふ此れ驚くべきの結果なり誰れが其の原因なるやと人の驚愕と謙遜の心を以て全智全能ある神を仰ぎ万物の創物者至高の父と呼ぶに至る
爾曹の天父の雀を養へり汝等の雀より優れるものならずや

(馬太傳六章二十六節)

第五章 「ゼオルゲ、ワシントン」の小傳

世界最高の記念碑の合衆國都府にあり高さ五百五十五呎大理石及び海外諸國より寄送せられたる石を以て建設せらる此れ七年間殖民地の軍を指揮し大統領の職を再撰せられたる「ゼオルゲ、ワシントン」を記念せん爲也此れ其尤も高大なるものと雖も其記念となるもののみ此の碑石のみならず合衆國に於て海より海に至るまで北より南に至る

まで「ワシントン」の榮譽を蓋す蓋し首府村落郡州の名稱及び數十の地名皆な此一人より來れば也其肖像の銅石にて作られ公園市街は高く聳へ軍人の如く馬上に跨れる處又大統領として直立したる様を呈出せり何れの家に至りて見るも種々様々なる畫繪の裝飾ある内「ワシントン」の肖像は其の尤も著しきものあり合衆國六千万余の人心に銘せられて忘れざるの最も大なる記念碑とも稱すべし
全世界の人皆彼れを尊重せざるを余始めに日本に來朝したる時高知の民殊に「ワシントン」を敬愛するを聞き大に悦びたるもあり其理由を問ふに全く愛國と自由の精神を鼓舞したるが故なりと各國に於て學生等が「ワシントン」の記事を叙する時は必ず先づ彼れの徳義上の勇氣眞理を重んずると無私なると及び其の愛國の情熱々たるを稱賛せざるのなし百有餘年前英國の「ワシントン」の敵たりし然るに英國大

宰相たる「グラットストーン」氏の昨年合衆國に書を遺りて曰余の善且
 大なる人物中殊に「ワシントン」を其の尤ともなるものと敬重す余が四
 十余年生涯の旅路を照らしたるに此の人なりと英國の史家にして國
 會議員なる「マカーシー」氏曰「ワシントン」の只に勇將たりしのみならず
 尚は大政治家なり國家を組織養成するの道を熟知せりと「パリ」府「ルイ
 伯」曰余の「ワシントン」を英雄且つ政治家として稱賛すと此の如くよし
 て東西諸國有名なる人々よりの贊評を集むるときに近世歴史上普く
 稱譽を拍するもの恐らく「ワシントン」の右に出づるものなきを知るべ
 し此の如き人物の品格を研究すると大益あるとなれば少しく今茲
 に其幼年の時よ於けると並せて大統領として其品格及び愛國の精神
 を略序せんとなす
 彼の一小斧よ於ける話しの誰人も能く知る所なり父の「セオルナ」斧

を興へたるや此れを以て彼れ一本の櫻樹を伐り誰か吾が愛する樹を
 伐りたりやと問はれたるとき少しも包むとなく私此れを爲せり敢て
 僞ると能はずと答へたる事、學校讀本中にも記載せられたり却説人
 此の話を聞くとき「ワシントン」の性質に能く符合するを以て直
 ちに信ず然れども此の有名なる話は眞實なるものよあらず「ウヰー」
 と稱する教師が其の少兒等眞實を告ぐるの美德なるを教へんと
 欲し且つ「ワシントン」を尊重敬愛するを知るが故に此の話を作りた
 る也、縦令僞作あるよもせよ此話の民心に膾炙し昨年「ワシントン」大統
 領就任式の百年記に於て金銀製の小斧「インナ」のものを各々競ふて
 章標、胸飾等とあせり其の斧よ「ワシントン」の首文字と一千七百八
 十九年より一千八百八十九年と印せられたり而して此の小斧よより
 て無数の男兒女子の眞實を話さべしとの教訓を得るあるべし

「ワシントン」の幼きとき学校の教育を受けたるとなし重く自與教育な
 りし夙に數理學を好み十六才のとき測量家となれり三年にして陸軍
 少佐となり二十三才にしてホルチニア州軍隊長とされり此時より既
 ち北米に於て其名聲「ワシントン」の右に出づるものなかりき彼れの身
 の丈け六呎三インチ縦横共平均し能力強く堪忍力も富めり苦役を
 好み故に其手固くして大なり大將「ラッウェット」云へるあり「ワシント
 ン」の手其の大なるに未だ見ざる處ありと彼れが合衆國第一の大統
 領と推撰せられたる事を探究するときは實に非常なる事變とも稱す
 べし百年間於て二十六度の撰擧あり其内「リンコン」「グラント」の如
 きは再度推撰せられたりと雖も異口同音を以て推擧せられたるの
 只「ワシントン」のみ也撰擧者の再度とも少しも不平なく一人も躊躇す
 るものなくして氏を投票したれば也

何故に合衆國の一百年間、斯く大勢力を有する國となりしやと問ふ
 人あり而して或る人は鐵物も富み人民の獨立心あるに由ると思へり
 素より此れらは國家繁榮に赴くの大元素なり然れども「ワシントン」の
 功勞感化力なかりせば決して今日の合衆共和國あらざりしなり如何
 とされば國民中黨派ありて南州の北州を助けることを拒み東州の西州
 より分離することを希ひたればなり加之或る部分は君王政治を希ひ他
 の只共同自治を望み或の各州獨立たらんを欲し或の一致を望むもの
 ありたれば也尙ほ又政治家將校等の心思狹隘利己高位高官をあらざ
 れば奉職するを否めば也惟ふに「ワシントン」の如き英傑にあらずんば
 此等の黨派を統一し人心を歸服せしむるに能はざりしなり
 己れの清潔高尚無私なる實例により反對黨を漸次統一し共和政治
 の美譽を世に公けにするに至れり其時代の佛國を見よ國民の王政を

轉預し合衆國に眞似して共和國を編成せり然れども佛國はワシントンなく「ナポレオン」番起して近世の一大英雄となれり彼れ殆んど佛國を滅亡せり共和政体を覆へしたり不幸の寶血を歐洲に流したり佛國共和政体の失敗合衆國の成功果して如何蓋し一「ワシントン」あり一「ナポレオン」ありし由る翻て「ワシントン」を見よ歐洲全國の面積を有する國にして過日王權政體變じて戦争なく一滴の血なくして一日に共和政體と變じたるを以て世人驚きたるにあらすや然れども此れ成功して百年を出でず共和強國となるや吾人知らず然りと雖聞く既に嫉妬争鬪現出し共和國分離して無數の小國とあり互に争ひ無益に能力を消費するに至ると流言するものあり嗚呼實に智勇愛國の「ワシントン」ありて始めて新國を教導すと云ふべし然れども彼國は斯かる大業を爲す人あるを聞かず「ワシントン」共和國の將來如何に成り行くや

「ワシントン」の言行録の愛國の字義をも能く説明するものあり愛國との何ぞや或人思ふ暗殺の愛國なりと百年前英國の「ワシントン」を稱して反逆人とせり日本に於て内閣もある或る大臣の或る人より愛國と呼ばれ他の人によりての反逆人と呼ばる抑も愛國との何ぞや「ワシントン」一行の以て眞正ある答辭を與ふべし彼れは七ヶ年の間軍隊の總督たり終に勝利を得たり全軍彼れを敬愛し書を飛ばして米國王とならんことを乞へり此の書を得て「ワシントン」の心配義怒名狀すべからず曰如何ある所行ありて以て人をして吾れ此の如きことを承諾すると思ひしめたるや吾れ實に此れを知るに窮すると答へたり彼れ王となるを否むのみならず自ら議會に望み七年以前に任命されたる大將の職を奉還したり只七ヶ年軍務にある時のみならず八年間大統領の職にあるときも報酬を少しも受領せず己れの時も能力も否な生

命を全く國家の爲め喜んで犠牲とせり三度まで大統領たらんとを
請求されたる時々の惟へらく共和國に於ての一人よて八ヶ年より長
く最高位を占むべからずと故に斷然辞したり而して辞職の演説を爲
して己れが田舎に退きたり愛國の意を知らんと欲するもの此處に
生ける字引を見出すを得る也

「オルビン」の著述よか、る「ワシントン」の生涯記あり前後四巻紙數千
六百ページ「容易に讀むと能はず其辭職の演説の僅々十餘ページなれ
ば一讀せらるべし語中遠望深思ある政治上の思想を見るべし勿論各
國に於て愛國の實例なきはあらざるべし然れども「ワシントン」の如き
の又稀れしして此の主意を了解せんよ「ワシントン」袂別の辭を讀ん
で大に得る所あるべし

第六章 勅語奉讀式の祝詞

縣知事閣下商議員諸君並に教員生徒諸君

今日此學校に於て勅語奉讀式を執行するに當り余は米國教員の總代
として簡單に勅語を就き演説して祝詞に代へんとす

忝くも 皇帝陛下が億兆の臣民に勅語を賜ひたることを考ふるに

封建時代の全く過ぎ去り 陛下政を親らし國民に近づき給ひ國民も
亦主上の敬應を直接に承る様になりたるとは一つの欣賀すべきこと
して 天皇陛下と國民との其の間隔絶するとなき其親しき關係を實
行するの照代たる一證の今回の勅語に於て明らかあるも茲に今日此處
に會して祝賀の意を表するの素より當然ありと信するなり

勅語の大意を一言に申せば只心要なる徳義の一事にあり是の故に勿
論勅語の内よの耳新らしき教あるにあらす只古き忠信孝悌等の教訓

を合ひのみ
 然らば勅語は別用なき者よあらずやと思ふ者なきにあらず余惟ふ
 に決して然らず如何となれば道德の標準と云ふものは万國民萬古
 不易のものなれば彼の「ソクラテース」釋迦孔子孟子の時より今日に至
 るまで新奇なる主義教訓を發明したるもの決して無ければなり而し
 て學術技藝の進歩交通智識の盛大なるに従ひ舊來の主義教訓を新ら
 しき場合は活用せんとするときは又新らしき方法を以て教諭せざる
 べからざるは必然のとなれば也
 譬へば今を距ると大凡そ二千年前崇神天皇の時代に於て忠孝の道よ
 就きての教へ方の決して封建時代は適せざるべし況んや維新後政治
 上の革命社會上の進歩人智の開達より非常なる變化を日本全國よ
 來たしたるを以て徳川家時代の教訓法の決して今日用ひられざる

との明瞭にして誰れも疑はざるあるべし
 是れを略言するに勅語の標準と云ふの決して不變なるものなれども
 其の教訓法の時勢の變遷と共に變更せざるを得ず然るに今日迄實行
 せられたる徳義法の其儘にて時勢に適せざるを以て人々各々勝手氣
 儘となり道德を輕るんじ敗廉耻に陥るの傾向なしとせず故に長くも
 陛下の今日の必要と思召され全國民に徳義の標準万古不變なると
 を教へ玉ひたるの實に日本の幸榮と深く信する所あり
 終りて臨み切に諸君の爲め祝賀すべきとあり何んぞや曰 天皇陛下
 下は億兆の臣民に勅語を賜ひしは忠孝の教育の淵源ありとの聖言あ
 り殊に全國の諸學校にありて三百万の青年子弟に講讀せしむることの
 實に欣賀すべきこと信する也日本の榮譽日本の將來の單に青年諸君
 の如何に大關係あるとの 陛下親しく教へ賜へり此の重大なる責任

を負わせ給ひしとの實は青年諸君が光榮を蒙りたると深く感ずる所なり願くは諸君此の學校に勉學せらるゝ、問忠愛の二事の責任を負ふことを學ばれんとを是れ切に希望して止まざる所なり

第七章「マユロー」之傳

日本に於て「マユロー」の著書頗る用ゐられ殊に「ウォレン・ヘスチング」及び「ロルト・クライズ」の普く知らるれば此の有名人の言行を零叙する又無益にあらざるべし「トラベリアン」氏「マユロー」の言行及書翰を讀むとを得ば尤とも良法なりと雖も此れを爲し得ざる人も多からん殊に英語學に通せざる人々の史説及び雜誌上より得る所より精確なる知識を求めんと欲する少なきにあらざる此の如き人は對して一篇の零傳を記して日本に於て政治上及び歴史上の思想に大影響を及ぼ

そ人物を照會する益あるとと信するなり

「トマス・バビントン・マユロー」の一千八百八十年に生れ一千八百五十九年一死せり幼少の時より記憶力強く或る時其父一友を訪ふとありしとき彼を伴ひ行けり二人對話は數時間を費やす間彼の小兒は机上に横のるスコット詩集を掃きて樂めり其歸宅するに當て毎葉を悉く其母に誦讀したり而して少しも誤るとなかりき十三才の時或る停車場に待合せたる時偶々一葉の古き新聞紙あり紙上二つの詩あるを見出せり各々十節づゝのものありき彼れ此れを一讀して去れり而して以後四十年間少しも此れを思ひ出すとなく只死する數年前に於て古へを想出し少しも違ふとなく一字も誤るとなく前より一讀したる兩詩を想ひ出したり然れども尙ほ其記憶力の儲かなると彼れの言にて証せらるべし曰く若し今彼の數百葉の天道歷程の書世に滅絶する

も決して一字を失ふとなくして己れ記憶より全書を再出するを得べしと、ミルトンの有名なる「マユロー」自ら言へり己れは初めより終りに枚の大部たる書あれども「マユロー」自ら言へり己れは初めより終りに至るまで一つの誤謬なく暗誦するを得べしと斯る記憶力を有するもの世は稀なり記憶力を有する人は無双の資を有するなり此の力を發育するの各人の要務なり蓋し智識の發達と世人は非常の感化を及ぼすの秘訣の此處にあり斯る記憶力なかりせば「マユロー」の政治家演説家且歴史家として斯く有名の地位を占むると能はざりしからん日記よせよ記録よせよ吾人の知る所の事に順序差別を立つるとの記憶の大なる助けとなれば智識上の資を貯蔵せんと欲するもの要務として鍛錬せざるべからざる也

「マユロー」の讀書するるとよ於て著名なり如何なる理由ありてか生涯妻

を娶らず然れども己れの書籍室を殊に愛して書を己れの妻とも思へる程なり決して書物を離さずとなく朝目の醒むるや否や直ち手書を探りて讀む衣服を着する間も書物を前へ播き只朗讀するのみならず又何か記憶せり毎日の運動のためは五六哩を歩行し其歩行する間も決して書物を離すとなし雑踏せる市中に於ても閑靜なる野外に於ても常に書を携へ時として一度の運動中一二百葉を讀むことあり

其の讀書するに著しきとは嘗て印度の大公會員として派遣されたるとき其航海中の事柄よて明か知らるべし航海僅か四ヶ月なりしが其間ホームメルヴオルナル、ホーリース、シーザル併せて希臘拉丁語よて五卷を讀み以太利有名の著作四卷及び西班牙語の一巻を讀めり此外英文書よては羅馬史五卷印度史五卷ホルテールの著書七十卷言行

録七卷此等の皆な僅々四ヶ月間一讀み終りたる也
此の如き記憶力と博き讀書は長じたるを以て人と談話に於て最とも
愉快なり其の演話を見るは古今各國の識者傑作より蒐集したる玉想
は充滿せり

以上記載する所によれば彼れの語學者たると明かなり六週間にして
西班牙語に通じ同時日を費やして以太利語に達し其國有名の著作を
讀むとを得るに至れり彼れの印度より歸るや獨語を勉強して自ら云
へり世上毎日十時間づ、勉強して四ヶ月は學び得ざる語なしと實に
彼れの拉丁希臘佛蘭西獨乙西班牙以太利の語は熟達せり然れども凡
ての言語の内英語を尤とも重んじ此れ今日文明に於て善を來たすの
一大力と思へり印度にある時其大陸數百萬の爲め教育の組織を成立
するは盡力せり其國の將來の上等社流の英語を勉強し智識の財貨を

翻譯して以て下等社會と與ふるはありと彼れの持論益する所多し左
に此れを掲げん

英語の西洋諸國の語中尤も擢んでたるものにして詩文集の高尙優美
なるギリシヤに劣らず雄辯卓説の標準歴史上の文學以て倫理政治上
の教訓を與ふるもの世は類なし哲理徳義政治法律及び經濟上は於ける
明論與妙の理論又健康を保ち幸福を増し人智を膨脹せしむる諸般の
實學世上英の右に出づるものなし故に英語は通ずる人の實は世界の
開明國民の世々創造したる智識の藏に自由は出入するを得べしと
「マユロー」の五十五年以前は於て東洋の一大國民は英語の博識を與ふ
るとは贊成を表して大影響を與へたる時の彼れの言論は他の大國民上
流社會の胸裡を奮起せんとし夢までも思ひざりし又其著書の只日本
の書店にあり而已ならず學生の書齋にありて史學勉強を促がし或る

政治家拙策暴行を露し他の政治家の堅忍無私の主義を明かして
青年の心を勵まそよ至るといふ全く豫想外のとなりき
實に「マユロー」の文學上の才能の上下の別なく衆目の注意を促がし彼
れの世に知らるゝや直ちに國會議員に撰まれ後五万弗の年俸にて印
度へ流遣せられたり其歸朝するや再度まで國會議員と推撰せられた
り其博識多才有名とあり内閣の地位を占め「ロルト」の尊稱を帯びて貴
族院に列するを許されたり然れども彼れの尤とも好み且精神を入れ
たる事業の英國史著述にてありき彼れの僅かよ八才の時万国略史を
編せり素より小兒らしき所ありと雖ども國民の關係を了解する非凡
の才能あるを証せり其成人となり至心全力を歴史に委ねたり彼れの
歴史の有名なるとは立どころよ十一ヶ國の國語に通譯せられ出版の
度數英國に於て夥だしく出版會社の或る時十万弗を「マユロー」に呈し

たるを以て知るべし
實に此の著作の有名なる古來未曾有と謂つべし世の日々に新たよ月
よ進むものなれば今日よ於て「マユロー」の英國史に優れるものあり
よあらずと雖ども世の彼れの名を稱賛し正直誠實愛國の精神に基つ
き彼れの史學政法學の才能を慕ふて其名譽の永く朽ちざるべし

第八章 中村敬宇先生自助論

過日中村敬宇先生逝去の報に接し日本の爲め一大學者を失へるを悼
惜して已む能はず余嘗て先生と語るの樂を得ざりしと雖ども先生の
都下屈指の教育家にして人才を陶冶し英書を譯出して世を益し人を
勵ましたるの著しきを識る殊に「スマイルス」氏著自助論の如きの先生
の媒介よよりて世よ公けよせられ幾多の青年を獎勵鼓舞したるや知

るべからず今先生の死を聞くに際し聊か世間より有名なる自助論(西國
 立志編とも云ふ)に就き陳べんとす
 第一「スマイルス氏此編を起草するに至りたる由來——世より有名なる
 著者にして只机より對して坐し筆を採り而して一書を編せんと志すも
 の益し稀れなり善良有益なる書に決して此の如く容易に成るものよ
 あらざるなり善良ある書の恰も人の如し漸次生長發育するものあり
 多數の歲月と思想の鍛錬と勤勞経験を要するものなり「スマイルス氏
 の書も亦此の如くして始めて世より著る英國一都府よりある百有餘の
 職工等教育の必要を感じ相團結して夜學校を組織し始めの自習獨學
 して研究の出來得る學科を修業したり然るに漸々己れ等より優れる
 教師の必要を感じ終に一大新聞の主筆ある「スマイルス氏を招聘して
 時々適切なる演説を請求したり氏の内容易し此れを承諾し講題を撰ん

で自助論とせり職工等の氏の演説を謹聴し大に獎勵せらるゝところ
 となれり故に「スマイルス氏」惟へらく一書を編して英國中よりある他の
 職工等をも益せるあらんと終に此書の現はるゝに至りたり其の世に
 出づるや人々争ふて此を求め世より好評を博し只に英米に於て然るの
 みならず歐洲各國の言語に譯出され以て太利國に於ての立どころに入
 萬部も賣切れとなるに至り此書の世評遠く日本國に達し敬宇先生
 此書の益せる所大且つ強きを感じて日本國の語に譯出し以て無數の
 國民より高尚なる裨益ある思想を注入したり余の過日此書に就き二人
 の日本の兄弟と相語り其一人曰く此書の實に余より大なる感動を興
 へたり勉強の法自己の能力を用ふるの法を余より示したりと又一人の
 曰く余の公衆の前より演説するとき數々材料を此書より得ると實に此
 の書の東洋國民を感動裨益すると莫大なりと謂つべし

第二此書の斯る感動力ある理由——蓋し人性中最も高尚にして貴尊ある能性、訴ふるにあり高き望を與へ隠れたる能力を興せば、此書を一讀する者の一個の人物となり、何か一事業を爲さんとするの精神を勃興せざるのあし、該書の序文中重要なる文字、「セルフ・コンドル」「セルフ・カルナチュール」「セルフ・デシプリン」の三語なり、日本の語に譯すると頗る難しと雖、其意の自ら制し自ら修め自ら教ふると云ふにあり、即ち人々各々己れを高貴なるものと發達せしむるの能力を有すると也、我等素より外界より助けらるる子の親より生徒の教師より、此職工は、スマイルス氏より助けを受く然りと雖、到底外界より來る助けは決して人をして真正の紳士淑女たらしむる能はず、必ずや人各々己れの内に賦與せられたる能力を認め、此を働かすことを勉めざるべからず、此を發達せしむるの法を學ばざるべからず、スマイルス氏本書

の中心の只此の一大思想、小存せりと云ふべし、故に此精神を己れの胸裡に服用し、日々此れを實行し、現はすに至りては、其人一層優りたる學者となるべし、職工となるべし、代言人、説教家、又政事家となるを得べし、他に此處に達するの道なきなり、然りと雖、本書の四つの思想を基礎とし、全編を其の上より立つるもの、如し曰、撰擇力、曰、良心、曰、責任、曰、喜樂、是れなり、余少しく此等の要點に注意を仰がんとす、

(甲) 撰擇力——正邪是非を分別するに應用せらるる、時に當てや此の能力は實に人類の特別なる一大憑證なり、若し此の能力を失はんとせんか、下等動物と何の異なる所か、あらん、此處に善行あり、彼處に惡行あり、何れか撰擇すべき、此處に良書あり、彼處に猥褻ある小説あり、何れか撰擇すべき、此處に眞理を愛し、義務を重んずる友あり、彼處に賤劣野蠻ある者

あり何れか撰擇すべき人間一生の間大事とかく小事となく事を物々撰擇力の働かざるとかく其達する所未生永死に關する深遠幽邃ある思想にまで及ぶなり人各々義務眞理生命を擇ぶべし然らざれば義務を怠り偽りの目的を撰み永罰を撰ばざるべからず此思想の自助論を貫徹せるものにして尙は進で第二の思想に移らしむ即ち

(乙) 良心——此の奥妙なる能力萬國民の良心と稱するものは何ぞや余思ふに良心の吾人の胸裡に叫ぶの聲なり以て縱令如何なる眼前の不幸禍害を來たすと雖ども常に善良眞實正義を擇ぶべしと命ずるもの也全智全能なる神の聲あり其聲を聴て此れを接くるもの天地の主ある神と交はるを得べしスマイルス氏自助論中に見はるゝ英雄豪傑烈女の傳は只善良優美なるもの、みを擇ばしめんと人々與へられたる良心の存するを示すものなり

(丙) 責任あると——人各責任のあるるを感せざる以上の物の數は足らぬものなり彼の百有餘の職工等が喜んでスマイルス氏の講話を聴聞したる蓋し己の責任を感じたればなり己れの責任を識るとい如何ある地位に在る人よりも必要とする所也教師たるもの又學生たるもの己の責任を感ず故にスマイルス氏の書を読みを以て樂とする又宜ありと云ふべし

(丁) 喜樂——人撰擇力を働かし良心に従ひ責任を負ふとき其喜樂の相伴ふこと影の形に添ふが如し素より初めよ於て其喜樂よりも困難を感じざるからん然れども終りよ至て大なる喜樂あり人此を奪ふと能はず其勢力たる富貴榮位の能力は優るものなり若しスマイルス氏にして前より陳べたる四ヶ條を了解せざりしならば此書を著述するとあかかしからん而して彼の百有餘の職工等此四大思想を以て幾分か教化

せられざりしならば彼等スマイルス氏の講話よりて感奮せられざりしなるべし

第三此の書に關して更に一問題の心は浮ぶあり曰く如何なる境遇あり如何なる社會に於て此の書の現れたるや神の存在靈魂不朽來世の存在に於ける信仰なき社會に於て現れたりしや神在るか否や吾れ識らず來世の有無何んぞ吾れを關せんと自稱する人民の内は於て現れたりしや大に然らず本書の如きを決して此の如き社會に於て此の如き空氣の内は現れる、ものよあらず又偶像教行はれ木を刻み石に彫りたる偶像の人の祈り耳を傾け困難の時人人を救ふとを信する國民中現れる、ものにあらざる也最も高尚優美なる思想の高尚優美なる信仰の行ゆる、所の外は現出せると能はずスマイルス氏にして貴とき能力を有せるとを識らず又教へられざる曖昧なる土人の内

第九章 愛國心

一在りて此の如き講話を爲したらんよの裨益を與へたると分釐もあらざりしならん然れども撰擇の能力良心責任及び喜樂を貴重する民のある處に於て此書大に用ひられ廣く愛讀せらるゝと疑ひなし日本に於て數千の青年等本書を愛讀して大に裨益を受けたる事實の綜合を嫌惡するもの多きよも係らず深く其神の存在を信じ靈魂不滅を信する者又多きを證するに足ると云ふべき也

愛國といふ人々殊に人民に媚びる所の人々が自由を唱ふる所の徳義なり小學兒童も自ら之を解せりと思惟する道徳の一なり而して此善良なる語を屢々一國民をして起て他國を侵害せしめ不義の戰爭を起さしめ或の政府に向て反亂を企てしむるに用ひらる諸國民の間なる凡

ての軋轢に於ての第一は此語を提出し而して甚だ汚穢なる事業を爲
そなり嘗て自己の意識を省察吟味したるとかき人々をして自ら愛國
者と唱へ思慮あき人民屢々或る辯説家軍人或の立法者を指して問へ
らく「彼の愛國者なり」

「ベトリクトアルノルド」の事跡を見よ彼の著名なる將帥ありき而して
「キベック」に於る其勇氣と成効とを以て合衆國民の賞美を得たり人々
自ら彼を認て愛國者と做せしなり然れども彼の五萬弗を以て其信用
を賣り而して英軍に於る一將とかりしなり於之乎彼は如何なる怨
を以て目せられしか彼のクイベックを於て足を傷けしとありしや米
人の之を榮譽とせり其反者となりし後と雖ども此忠愛なる負傷をバ
全く忘るゝことなかりき然れども謂へり我等若し「アルノルド」を捕へ
バ彼の足の軍隊の尊敬を以て弄らん然れども其餘の之を隠さん

日本に於ての此の如き反逆の起るべき恐あらざるなり此國民歴史上
の發達の之をして起るを得ざらしむ然れども此國に於ての彼の一己は
於て或は出来る丈公然と政府に對して種々非難の言辭を放ちたる間
もなく或る官位に就きて全く政府の批評を止めし如き人々の例の果
して存せざる手是れ即ち斯かる人々の未だ自己の意識を知らざる者
たるを簡明に顯すなり彼等の一種の愛國者たるを得ん然れども確よ
聰明なる愛國者たるを得ざるあり愛國心を口にするの甚だ易し然れ
ども此徳を有するは斯く易からざるあり十八世期の英國に於ての彼
の有名なる博士「シユンソン」をして愛國の卑劣者の最後の逃避所なり
と謂ひしむる程は多くの利己狹隘偽善なる愛國ありき而して晩近に
在て著名なる記者「マシユール」の之を題とし謂て曰我等屢々
實の卑劣者にして自ら愛國者として通過する人々を見るよ我等の斯

る愛國者より免れんとを祈るべし此外又愛國なる美麗なる名の下に
 隠れ居る偏僻なる私利自欺あり而して又尊ぶ可き愛國心あり
 佛國の倫理學者マヤチ「曰く愛國心は我等の最も混雜せる感念の一
 よして實の數多の異りたる元素より成れり其第一の我等の生れて幼
 年の日月を費したる所の土地の愛即ち古郷の市邑の愛なり此一郷土
 の感念次第に擴張して一州又一國土を抱括するに至る次に此土地の
 愛を加ふるは我等の與に住したりし人々即ち我等の同胞國人に於る
 愛を以てせざるべからず土地ありて市民なく市民ありて土地なきは
 與に愛國心を發揮する能はざるなり愛國心は合入せる他の重要なる
 元素は即ち言語の同一法律の同一族幟の同一歴史上の遺傳政府の同
 一の如きは是あり此の如く吾人の愛國心あるものも七個の元素あるを
 見る然れども自ら愛國者なりと稱し又自己を以て愛國心の實例なり

と思惟する人々よして此元素中の半分だも有する者何ぞ夫れ少きや
 多くの人或の只此第一第二の元素を以て愛國心の全部と認め而して
 之よりして彼の外國人をば單に彼等の外國人なりと云へる理由に因
 て單一に不道理に嫌忌する所の普通の感情を生ずるなり然れども彼
 の言語法律族幟及び政府此四個の諸一致を生出して一大國民を建設
 せしめたる大原因ある歴史の智識よ由ての如何に雄大高尚にして奮
 勵的の感念を生ずるぞ然れども此歴史的の理由に因て生ずる所の愛
 國心と雖も或る事情に於ての不道理とありて一國に恥辱を來らすこ
 とあり例せば英國最近の戦争の一に於て或る政事家の謂へる英國の
 常は正かるべし然れども正なれ邪なれば彼の常は勝つべきなり而して
 是れ即ち英民をして善惡半ばせる感念を讚するに至らしめたる挑發
 なりし此政治家よして若し一層高尚ある愛國者たりしならば當り言

ひしなるべし「英國は常々正かるべし而して若し自國邪ありと知らば彼の明白に其邪惡なるを認めて之を償ふの道德上の勇氣とを有すべし」と此の如く吾人の「シャチー」の愛國心の七素は於ての猶は不十分なるを見るなり此外猶は一要素を加へざるべからず即ち普遍的正義の愛一文明宗教政體の異なるに關せず凡の國民或の一二國民に對する正義是なり

勿論英國の政事家中の此八要素を具有し而して以上陳べたる言を公然賞讃せる所の人々少なからざるなり又英國の歴史家も英國が正義なりし丈け其邪惡なりしをも記せんことを欲するの現時の最も喜ぶべき兆候の一なり古代の歴史家の概して一方の凡て善のみを記し他方の惡のみを記し自家の恥辱は全く之を拵ひ敵の恥辱惡事の悉く之を顯し以て眞實の記事を撰るを常とす然れども今や諸國民

よ於て開明的正義なる愛を以て其國を愛し而して彼の未開或の半開民の狹隘私慾の愛國心を非難攻撃するを遲疑せざる所の歴史家政治家の諸國民よ於て之れ有るを見るなり

博士「ウルシー」氏の國際法の序文を見よ彼れ其内よ有體と謂て曰く彼の此書よ於て國民的或は其他の偏僻あるを認めず合衆國の概して貴重すべき國際の歴史を有せり是れ恐らくは全部ならずとも一部の此國舊世界諸國民との密接ある交際と交互の嫉妬より遠ざかり居るに因るなり然れども吾人の惡事を爲したることあり而して此書よ於ては斯かる邪惡ありしよ遇へば之を罪するを遲疑せず蓋し此の如きは善良なる市民の當に爲すべき例あり

博士「ウルシー」の名は普く文明國に知らる氏の二十五年の「圓エール」大學の校長たりき氏希臘語の有名なる學者たりしに由り晩近新約聖書

の翻譯を改正せる委員の長に撰ばれたり又國法並に國際法の學に深き由て屢々大統領の評議に參し彼の英國と合衆國間の有名なるアラバマ事件に於ての調停者の一人に撰ばれ而して合衆國の大統領並に内閣員のカムドールへ得べき最高の外交官即ち英國駐在の全權公使たるの推撰を受けたり而して晩近此大人の死せしや大平洋より大西洋に至る新聞雜誌の其徳を列擧し其高貴なる生涯を稱讚せり然るに此數多なる讃辭の中は於て余の其一をも此有名なる學者政事家と呼んで愛國者と云へるを記憶せず然れども彼の此等の凡て口より由て騰くべく眞理を愛し偽を惡む所の人として讃せられたり何者をもウルマニ氏をして此眞理より毛髮程も離隔せしむる能はず縦ひ之が其愛する本國に恥辱を來せとも之を離る、能はざるあり

此の如き例の現今は於て數多發見するを得べし之は於て吾人は左の

如き疑問を發せざるを得ざるあり曰く「愛國との第一位の徳なるか將た第二位のものたるは過ぎざるか吾人が政治家將帥等を指て彼の愛國者なり」と謂ふの果して彼等より於ける最高の讚辭たるか

吾人の彼の年三十三にして「キベツ」の戦争に不起の重傷を負へる「ウル」將軍の事を讀めり彼れ正に死に瀕せる時高く叫んで「彼等の逃がる彼の逃がると謂ふ者あるを聞けり將軍血も染みながら憂ひ問ふて曰く「逃る、誰ぞ答て曰く「敵軍逃るゝなり」さらば余の幸にして死すべし是れ實に將軍最後の語ありき彼の自國の爲め死するの甚だ甘快なるを感じたりし實に然り但し其國正義なるが故なり眞正の愛國の自國をして常に正義ならしむる勞働は於て成る故に正義の愛は第一位の徳として之より必然の結果として一國と其榮譽の愛生じ來るなり愛國は只博士「シャチー」の所謂七元素を以て成ると教ふる所の人

々の是れ一國民をして他に向て不敬と害悪を爲さしめ又佛國の如く革命相續くに至らしむるの道を教ゆるあり愛國の要素は正義眞理の愛是なり

ユダヤの歴史の男女兒女並に政事家が其愛する一國の爲め大膽に命を棄てたる美談を以て滿てり彼等の強き愛國的人民なりき而して其強き羅馬の軍に征服せられたる時は彼等實に不滅の怨を以て其勝利者を怨めり彼等租税を出すを拒み又幾回となく反亂を企てたり此世界が嘗て見たる最大なる道德の教師として識認せられたるイエスの恰も此困難ある時生れ而して其の異常なる教訓と懼れなき勇氣とを以て全國民を自由に従ひしめたり國民の擧て羅馬の法律に反し且如何にして此惡む可き勝利者を顛覆すべきか就き日夜に語り合へり然れどもイエスの三年の傳道の間彼れ深く其國を愛し橄欖山よ

坐し「エルサレム」の壯都を伏願しての涙を流せしと雖ども其人民の爲め己の生命を與へしと雖ども曾て一度も愛國なる語を吐かざりしなり爾の心を盡して神を愛せよ己れの如く爾の隣を愛せよ是なり地上の國民此大教訓を知る迄政事家教師たる者之を教へて効力ある迄人を呼で愛國と云ふの只第二位の讚辭たるに過ぎざるなり義の國を高くし罪の民を辱かしむ(箴言十四〇三十四)

第十章

I am

英語を勉強せらる、諸君が先づ最初識る英字の Can, will, must, am の如き單純なるものならん此れ等の文字の最と簡易なるものなれども其意義に至つての實に深重なるものと云はざるを得ず素より俗用に於ての深き意味もなく學ぶとも難きにあらざるべし然れども時として

英語の源語とも稱せられ其の字義より力あるは此の言語傳播の一因たりと云ふべきあり又右の如き單語の或の冠語主眼語にして言語の發達を支配し至文の主意を明了とするものあり故に深く研究するの價値を有するものと云ひざるべからず

余は今其の内の一ある「アイアム」の二字に付き話をなさんとす其の二人稱の「ユー、アール」其の三人稱の「ヒ、イス」にして容易に學ぶを得るなり殊に名詞形容詞動詞と一文の内は相聯絡するときは殊に然りとす例へば吾れ強し吾れは教員なり吾れ東京へ行かんとなす等の如し別は難儀深遠なる意あるよあらず初學の青年も容易に「アイアム」の言を使用することを學び得るなり若し只此の事のみあらば別は一場の演題とするよ足らざるべし然れども又他は優れる深遠ある意味の其の内は隱然存ぞるあれば余は今其内よ存する二大思想は諸君の注意を促

がさんとす而して諸君の智識は進歩せらるゝに従つて各々自ら深く研究自得する所あるべし

第一近世の哲學科學の「アイアム」基礎を置くものなり

大凡三百年以前宗教改革後歐洲諸國は於て政治社會學術上新思想の勃興してより佛國の哲學者デカールト氏凡ての理學科學及び宗教を悉く排斥し凡ての物を疑ひ何物をも信せずして排斥し而して後果して何か確乎不動のもの残らざるや否やを研究するの氏の目的にて有しが遂に氏の惟一確立するものを發見せり即ち思想なり一吾れ考ふとなり一故に此原理を定めたり曰吾れありとデカールト氏思へらく此の事を決して疑ふと能はず排斥すると能はず信せざる能はざるありと此の原理上は彼れ其理學を立てたり其後今日に至るまで歐洲諸國の大家の「アイアム」の二字を承け其の深遠幽遠なる哲學の原理とな

七十八

せり諸君西洋の理學を勉強せよ先づ諸君の注目を要するもの此の二字あらん茲に始めて其の意味深重にして近世の哲學思想に影響を及し其人間の眞性眞價を明らかにしたることを了知せらるゝなるべし諸君試し「ヴェブストル」氏大字典を翻し自己と云へる部を見よ數百の言語の此の字より組立てられたるを知るべし其語數五行半に充滿するを一讀せば人類の眞價尊貴なるを悟るべし例は自 治、自 省、自 身、克 己、自 助、自 知、自 尊、自 重、等の如し而して此れと同時に反對の有様人間の墮落したる賤劣ある汚穢なる性をも學ぶべし例へば自 誇、自 欺、自 滅、利己、自分勝手等の如し以上の如き或の善性を表し或の悪行を表するの言辭の何れを根據とするや皆ち只此の「アイアム」にして自らと云へる意あり若し此の言辭を語學中より取除くとさの万づの哲學其の基本を失ひ人も亦只禽獸と等

七十九

しき肉性を有するのみよて發達無限ある美性能力の存するあきよ至るべし

「アイアム」の語より直接に生じたる一言辭にして英語に非常の勢力を與ふる者の「ベルソン」又「メルソナリナー」の語也此の字の正しき譯語を日本の親友等と數々問合したるとあれども或は品格とか或は人物とか或は人たることとか未だ正當あるものを得ず英語の哲學者「ロン」氏其の定義を下して曰く「a thinking, intelligent being, that has reason and reflection, and can consider itself as itself, the same thinking being in different times and places」其意の理性を備へたる才智思想ある者にして境遇と共に變せざる自らと稱するものなりと云ふあり「ベルソナリナー」の肉体にあらす蓋し右手を切斷せると雖も吾の依然として存せば也故に肉体の内は存する其の變りして意識自由を有するものあり此の辭よりして實に世界

の民心を感動鼓舞したる言論の自由思想の自由信教の自由さぞの辞
 生じたる也此の如き思想の存するなくば世の有様果して如何ぞや知
 識の進歩を見るときなく社會の改良政府の改良あるとなし而して此等
 の辞の皆一小字なる「アイアム」は根原するものなり
 「アイアム」なる言辭の眞價と能力未だ識られざるとき其の國民事ろ
 君主專政無智蒙昧は安んずるの傾向あり然れども其の辭義明らか
 黨陶教訓せらるゝ所は於ては暴君汚吏の政衰へて智識開達社會改良
 に至るべし只は近世哲學及び學術のみならず思想言論の自由を公許
 し人間の眞價を承認する近世の政府憲法の悉く「アイアム」の内は隠れ
 たる眞理を基づくものと謂つべきなり
 第二の思想——一層深遠なるもの——殊に諸君が數々熟考せらるゝを願
 ふに——他なし「アイアム」ある言辭の世界未曾有の宗教的大運動——即ち

基督教——の基礎あるとなり余は或る日本の識者よ問はれたるとあり
 君の拜する神の名は何ぞやと其答へや別は難きよあらざる也新約書
 への神を常は天父と呼べり然れども舊約への常は「エホバ」の神とあり
 而して大古神始めて自らを人類に示す時に於てや「モーセ」告げて吾
 れの「アイアム」ありと云ひ給へり試みて出埃及記三章一節より十六節よ
 至る迄を一讀せよ余の只一言せんと欲するもの即ち此の「アイアム」
 なる名よりしてユダヤ國民の神は惟一獨存全能全智宇宙を造化し人
 類を主宰する「ヘルソナル」のものたることを學びたると也畧言するは神
 の宇宙の勢力よあらず法則よあらず天則とか運命とか命數とか云ふ
 如きものよあらず彼れに凡ての勢力と法則の上よあり理法憲法を制
 する「ヘルソナル」のものなり

東西國民の差異の何れよ存するや東洋の國民の遙か古代の民よし

て數千年間依然として滅亡せず然るは西洋の國民の悉皆近代の民なれども濶々として進歩し教育理學政治宗教等よ於て世界の先導者となれり何ぞや余の信ず只基督教のあるありて生けるペルソナなる神人間よ永生と自由を與へたる「アイアム」なる神を信するの一事よあるを然るに東洋の宗教の概ね「メルソナル」よあらず只天然の法則よ基くものなれば也或の天と云ひ天則と呼び勿論從つて命數とか運命と云ふ思想生ずるあり故よ東洋の政體の從來君主專政或の歴政行のれ人民の間に種族の階級甚だしく其懸隔毀つべからざりし此の如くあるが故よ平凡なる民の別よ尊重せられず只賤劣宜ろしく奴僕として牛馬の如く使役するよ足るのみと思へる、のみならず尙は其の如くよ取扱はれたり
夫れ然り然りと雖ども天或の天則或の運命などと云へる言辭中よ幾

分か眞理の存するや論を待たざる也而して此れ等の勢力法則の上よあつて此れらを支配するもの尙は大なる眞理ありと云ひざるべからず此の眞理といは謂生ける「メルソナル」なる神「アイアム」なるもの吾等の天父と仰ぐものあり此の眞理を信じて始めて自己の意識自由なると万有法を利用する自己の能力及び貴賤賢愚の別なく万民の貴と卑價あることを充分よ信ずることを得る也
願くは諸君よ諸君各々英學を研究せらるゝと同時に此の一小言辭なる「アイアム」の内よ含みたる重大無限なる眞意をも熟考せられよ

第十一章 運動會

過日運動會を催ふし諸君の三里足らずの道を遠しとせずして徒歩海濱よ遊び競走旗奪等終日の歡を盡して日の西山よ傾くを棄れたり

を廻らして歸路に着き再び仙臺に達したるの午后八時半頃なりき故
 諸君は大に疲勞せられしからん其夜は前後不覺に熟睡せられたる
 からん或の心地よげに終日運動のこと漠々たる大洋のと其日の歡樂
 のと等夢よて復習せられたるもあらん
 余は諸君が如何なる愉快ある夢を夢みしや知らず又諸君の頭腦よあ
 りし思想の如何を知らず恐らくの余の見ざるを諸君の見諸君の見
 ざりしものを余の見たりしや知るべからず故に余の聊か余が心中よ
 存せしことを話さんとす
 余の原町を離れ彼の稻田の左右に眺々たるを見惟へらく恐らく此の
 稻田の最と有益なる歴史を存せし宜ろしく研究するの價値あるべ
 しと此の如き平坦なる田野の仙臺以東に現出するに至りたるの如何
 必ずや大古より此處に在りしよあらす此地の海面上僅々四五呎に過

ぎす而して若し此地にして今六呎も沈滞せば海濱の仙臺市を侵すよ
 至るべしと
 若し松島よある岩石藪濱以北の海岸を吟味するときの其の沿岸漸次
 よ高まりつゝある證據を見出すを得べし獨乙の學者ライン氏に日本
 帝國の形勢を研究するため千八百七十四年より同五年に至るまで
 ロシヤ政府より派遣されしが同氏曰仙臺灣と釜石の中間に釜前灣わ
 り此の海岸の岩石には海面を去る四呎半の所よ小穴の水平線に並列
 したるあり此れ等の小穴は介魚と稱するもの、穿ちたるものよして
 歐洲近海よ亦太平洋よも生息するものなり而して此れ等の小穴見
 出さるゝ處よの古昔其の岩石の水面の下よありし確證なり是よ由て
 之れを觀れば日本北方海岸の一部の漸次に高まりて遂に四呎半も古
 へより高くきりたると明らかなりと

此の如き海岸の高起は此の地方に常に生じて今や大平洋の海底でありしものも變じて良田とあるに至りたり然らば海岸線の何れもありしやと問へば此れ甚だ見易きこととして諸君鹽釜を行く途中左手の小丘の海岸線の帯びたるなり而して其の線は相ヶ岡兵營の下に出で長町に繞れり今彼の農學校の存する處は以前の水底にして海灣は廣瀬川に沿ひ向山の麓まで来りしならん諸君の必ず土繩下に於て古への海岸線を見るべし其の堤の數百年以前其處に生存したる介類の充満せるものあり

然らば一問題の生ずるあり地而は今尚は高起しつゝあるやと恐らくの然らん然れども此れを確言すると能はず若し果して高まりつゝあらば數百年を出でずして松島灣の大部良田と變ずるあるべし現に海内頗る淺く水藻茂り若し水底六呎も高まらば水退き底顯れれば大陸の

一部と變ずべし其時來らば日本三景の一も其影を隠し今や漁夫の骨折る處も農夫の勞働する處と變ずるなるべし

然れども尙ほ日本國に關して一層大なる思想あり抑も日本全國大古に於て一度の悉皆海底にあり激浪怒濤の其上に碎けたるは相違なし會津にあり一高山の頂上に於て余の介類の化したる砂石を見出したるとあり以て此の山頂も大古に於て水面の下にありしことを證するに足るべし思へば日本全土も地震のため火山の働のため大海深水の壓力のため海面も高起せられ万物の主なる神此土を日本の國民と與へ賜ひしなり山川河海的美景群島羅列し江灣屈曲して天然の風景に富めると地球上他無比類なし國民の賞し旅人の讚する所なり

天地の神の既し此の美國を諸君と與へ賜へば諸君宜ろしく此國を愛護すべきなり加之ならず先づ第一に國風國民の品格をして天然の風

景の如く美麗高尚あるを願はずんばあるべからず余の此の如き思想を抱いて運動會より歸りたり故に茲に聊か余が意見を陳述したり願くは諸君彼の山川彼の風景を見る毎に其の内よ存する深き眞意を悟らんことを

第十一章 鴉片戦争と基督教

東洋の日本に在る論者の西洋諸國が東洋國民に對する所爲を研究し大に評論する箇條少なしとせず或は西洋の國民の過失惡事を摘發して此れを樂しみ又基督教國を以て何故此の如き不義不正なる舉動あるやと論じ去るものも少くあらざる也論者が評する如き惡しき舉動の其の一に必ず五十餘年前に破裂したる鴉片戦争なるべし余の此れを演説し論説し耳にしたると教々あり

故に余の一個の外國人として意見ある所を聊か陳述せんとす公平なる眼を以て評する人の必ず同意せらるゝならん余の此の一擧の英國に耻辱を來たしたる者宜ろしく無用有害なる物と評して可なる者と信する也然れども只此の一評に止まらず我等は進んで果して此戦争より好結果の來らざりしか日本國の此れにより大に裨益したる所なきかを研究せざるべからず尙ほ言を換へて云へば斯る不義の戦争も如何なる益を全地に與へたるや基督教の斯る暴擧に參與するやと問ふもあり宜ろしく熟考すべき事なりと信する也然れば先づ戦争の因て起り來りたる始末を知らざるべからず殆ど四十年間英支の商人は印度に於て貿易通商に従事したり英國人の自國の産物を香港の南に位するマカオと呼べる一小島に運送し彼處に支那人と貿易を爲せり其の産物の一つの鴉片にてありき支那政府の此

れを嚴禁したり然れども何れの國に於ても利欲の爲めは國禁をも
 犯し密輸入をなすの商人あるものにして此處に又不正なる商買の生
 じ來りたり抑も國法を犯して商買する場合は於ては各々互に詐欺騙
 取竊盜等の悪行自然に生ずるものにして競争不和争闘起り易し故に
 英支の商人間も於ても稍もすれば亂暴の言行あると數の免かれざる
 所となれり斯くて此の不正業も漸々盛大となり従つて争闘も數を生
 ずるの有様も立ち至りたり英國政府の早くも必ず事あらんと推知し
 終に訓令を下し英國人の決して支那の風俗法律を犯すべからざるを
 以てせり又英國人の商業取締人を派遣して禍の起らざる注意をなさ
 しめたりき

然るに此の取締人の軍艦に乗じて支那の河流を溯るべからざるの訓
 令を帯びたるも係らず彼れ其命を背き河流に沿ひカントンに近く

軍艦を進めたり是の時も際してや既に互の困難の大も互に疑念も深
 かりければ戦争の生ずる鏡も懸けて見るが如くありし支那人以謂ら
 く英國人の戦争そのの決意あるべし英國人も亦以謂らく支那人の戦
 争するの用意なるべしと此の如く勢制し難く遂に互に戦端を開らき
 前後二ヶ年の星霜を費やす事とはなれり素より支那人の近來の發明
 にかゝる軍器軍制をければ連戦連敗遂に香港島を英國に譲り五港を
 開らし和を講ずるに至れり又英國のどこまでも支那に鴉片を賣買そ
 るの權利を固守したり故に此の戦を稱して世に鴉片戦争と呼べり
 余思ふに英支兩國間の戦争の早晚必ず起らざるを得ざりしかり蓋し
 兩國民始めて互に相交通するときは必ず此處に多くの誤解を來たす
 と當然にして戦争より他は此れを落着する方法なればなり然し
 亦がら英國が支那政府に追つて支那國民の徳義を毀損し健康を害せ

る毒を輸入するを許諾せしめ租税を徴收せんが爲めに此れを爲すに至つての一國の大罪なり只英國のみならず文明を以て誇る西洋諸國民の耻辱と云はざるべからざる也
然りと雖ども鴉片戦争の又大い世を裨益せし所ありとせず今聊か左
よ此れを辨せん

第一 戦争の當時英支兩國政府間未だ公吏上の關係あるもの存らざりしなり只僅少なる商人等が相通商したるのみ英政府の將來困難の事件生ずべきを前知し支那政府と公吏上の交際を結ばんと欲し鴉片戦争より二十五年以前英國の「アモルスト」侯を全權公使としてペキンに遣はし支那と確實ある公吏上の交際を啓らさし以て互の誤解を未萌し防がんと希望したり後「アモルスト」侯の支那に到着するや支那の高等官等は出迎ひ直ち國都宮城に案内せりやがて國王の前に出づ

るや衆皆侯より平身低頭せしむ然れども西洋國は斯くの如き禮儀なく侯も亦自國の風を曲げて此を爲すと能はず故に謹んで其儀を辞したり而して支那國王の此の故に遂に公使に對面するとを謝絶したり故に已を得ず侯の其の使命を全ふすると能はずして英國に歸りたり若し支那にして當時彼の公使を歓迎し然して支那も亦全權公使を英國に駐劄せしめしならば此の戦争を來たしたる困難の容易に和解し鴉片戦争の不義大罪を未發し防ぐとを得たりしならん悲いかな當時兩國政府間右の如く公使上の交際とてもかく戦争を開くの方已を得ざるに至りたり然れども戦後五六年間於て支那政府も公吏上交際の必要あるを了知し始めて東西兩國の間は公使を互に派遣するに至れり是れよ由て之れを觀れば此の戦争の實に東國と西洋の間の善且貴と關係の端緒となれり此れより先きの只下賤卑劣なる商賈人

のみが東西兩間を聯絡せるのみよてありき嗚呼又大なる變動と云ひざるを得んや今や凡ての東洋諸國の公使を派遣し派遣せらる而して遂に親和全く成り交通漸く固くなれり斯くて東西を條約よよつて結合し通商貿易によつて相隣りたらしむるに至りたり

若し鴉片戦争のあるよあらざりせば今日の如き親和ある關係あるを見るに能はざりしならん従つて東洋諸國に電信鐵道の便なく學校の設け海陸軍の制其他百般の開明便利あらざりしならん反て封建の暗夜に道途せしならん幕政を轉覆せんとして國內荒蕪とありしあらん然れども今日明治の照代を仰ぎ世界の文學技藝實力悉く日本よ存するを見るよあらすや余の外國人として諸君の前よ居り多くの日本の青年諸君は海外よ遊學し彼の青年と智識榮譽を競争するあるよあらすや是れ蓋し鴉片戦争一大好果と云ふも敢て不可なきあり

鴉片戦争の直接日本よ於ける影響の實よ著し此の戦争の隣國支那よあるよ係らず其の報歐洲より來るまで何事も知らざりき和蘭國王「ウヰリアム」第二世の一千八百四十四年長崎よある蘭商よより一書を幕府よ呈して曰英國既よ支那を征服したり遠からずして貴國よ至らん宜ろしく和を講せよ然らずんば戦備せよと余は此の話を聞き益々信を鴉片戦争の日本國が水師提督ペルリの齎らしたる合衆國の要求を諾し貿易通商及び公吏上の交通を開くよ應えたる一理由ありと故よ鴉片戦争を論するよ當り此れらの結果の決して見過ごしよすべからざるあり

第二 鴉片戦争の時よ於ての外國人よして日本語よ通するもの一人もなかりしと信す日本の風習歴史政体よ通じたるもの外國人中一人も無かりしならん又支那國も世よの知れざりしならん其時よ於て西

洋人の東洋人を以て野蠻汚穢無學貧賤なる者と思ひしなり東洋人も亦西洋人を赤髮綠眼猛惡無道なる夷人と思ひたるなり彼れハ此れを知らざりし此地の美德美政宗教人物等を知らざりし此れハ又彼れを知らざりし然るニ今此くの如きの有様一變し全地の民ハ互ニ相近接親和し素より交際法の完全なるニ至らず條約の完美なるに至らずと雖ども万国公法ニ基つきて大に面目を一新したり吾人の未曾有の盛代ニ生る—諸の族のつとあり万づの舌のつとあり互ニ相尊敬慕するニ進むの時—或ハ未だ軋轢するともあり時ニ戰爭を生ずるともやあらん然れども此の如き不義の戦再びあるとなし海底電信より郵便船の往來により駐劄公使のあるにより東洋人の西洋ニ西洋人の東洋に住するにより戰爭の原因誤解等の多く未發ニ防ぐとを得るあり

試に露國皇子遭難の一事を見よ若し舊幕の時公使の派遣もなく只賤劣なる商人の東西相往來するあるのみの時に起りたりとせんか必ずや恐るべき戦争ニ至りたるや少しも疑ハざる所なり然れども其の落着の穩便ニ選びたるを見よ露公使の東京に日本公使の露都にあり海底電信の兩國間ニ相通玄一兩日の内ニ事情判然たるを得たり露皇子の厚意—日本國民の同感—實に万國民は終ニ互ニ相敬し互ニ相信するの域に進まんとす眞ニ吾人は好時運に遭遇せるものニ非ずや

第三 基督教との關係如何—島田三郎氏が嘗て仙台坐に於て演說中曰英國に於て道徳力の實在し而して鴉片戦争の起りたる時英國人として英國の不正なることを痛論した者多きは確かなる事實なり此の道徳力の生長するものとして今日に於て政治家なり上下議員なり説教家なり皆な口を極めて英國の不正なることを陳べ實に耻辱の至り

なりと慚愧するもの悉く然らざるのあしと
 此の道徳力の只に基督教より起原するものなり蓋し此の教の中心たる
 教理の(甲)全能全智の神の万民の父あると(乙)故に万民は皆な兄弟たり
 姉妹たるとなり一千八百年の間此の眞理は世に傳へり而して未だ全
 く此れを學びたりと云ふを得ず然りと雖ども基督教の傳播する所の
 國と國との間の籬を毀ち正義公道より基つき全地を親和せしめんと
 す故に吾人等互の過失罪惡を見て悦ぶべきにあらず却て今や互に相
 了知し互に相扶助するを得るに至るを以て喜とすべし此の思想の人
 をして眞正善良の愛國者たらしむ而して基督教の信仰と實行益々盛
 んになるは従ひ各國民各々其異同ある所の反て互の益となり互の力
 とあるとを知るべし余が本國を辭して來朝したる此の理を信すれば
 あり余不肖と雖ども世界をして眞の同胞たるに至るの大運動の一助

第十三章 仕方が無い

を加へんと希ふ者なり是の故に余は日本の言語風俗を勉強し又諸君
 は西洋の言語風俗を教ゆるを喜びとするもの也
 世界は於て此の各國相親近し同胞とあるに至る運動より他は大きな
 ものあるあし而して先きは陳述したる基督教の二大教理——神の万民
 の父なると萬民の互に同胞たると——を深く心より信じ厚く身を行ふ者
 の實に世界尤大尤良なる一運動に力を添ゆるものと云ふべきなり

外國人が日本語を學ぶに當て殊に耳朶を觸れて奇異の感を超さしむ
 るもの仕方がないの數々會話中用ひらるゝあり最初の別段は
 氣付かざり蓋し或る場合は於て此の如きの言を用ゆる當然なれ
 ば也然れども日本の人々と親しくあるは従ひ日本の両親の數々其の

子女の前にて此の語を用ひ子女も速かゝ親等も倣ひ仕方がないの語を用ゆるを學ぶに至るを見出したる學校に行けば教員たるもの「仕方がない」と云ひ旅行すれば旅人の會話「仕方がない」と云ふを聞けり旅店に於て客人より下礮に至るまで數々仕方がない」と云ふを聞けり諸官省に於ての人民の統御者たるもの「仕方がない」と口癖にするを常とせり故に遂に外國人をして日本の「仕方がない國」あらざるやを怪ましむるに至れり

勿論或る場合に於て此の如き語を用ゆるの當然なりと雖も又或る場合に於ての實は有害なることありされば何れの時可にして又何れの時不可なるやを暫らく研究せんとす

今朝太陽の六時頃東天に上りたり何故に太陽の北或の西より上らずして東より上りしや何故十二時上らずして六時上りしや蓋し已

むを得ざれば也仕方がなければ也太陽は東方よりあらざれば上ると能はず又朝もあらずんば他の時於て昇る能はざるなり太陽の撰擇力を有せず赫々たる日輪の地上に光輝を燦爛たらしめ光を與へ熱を與へ福を與ふると雖も實に仕方のない太陽あり又此の鉛筆を手よし而して此れを放さば忽ち床上に落つ其理如何と問はば只仕方がない故也其の鉛筆の横も左右も上にも動く能はず引力の理法に従ひ直下は落ちざるべからず又石を拾ひ此れを空中に投せよ石の人の投する方向に行かざるべからず決して他の方向に飛ばざるなり蓋し仕方がない石あればなり此の如く凡て生命を有せず智力意識を有せざるもの「仕方がない」ものあり大凡物理學は此の一原理に關することを研究するものとして理學に於て此れを必然と稱す動植物山川日月星辰悉く必然の理法内にありて吾人が目撃するより異ありて運

動する能はざる也
 然れども人の金石禽獸の如く常は必然の理法に制せらるゝものなるや若し然らば人も亦仕方がないものなり或る理學者の説をきして曰く人は他物と同じく必然の鉄柵内にありて意志の自由なしと又此の如く教ゆるの宗教も世あり而して此の原理に基づき教訓されたる國民は常は仕方がないと口は稱し常は壓政を治に束縛さるゝを見るなり決して自由とか立憲政体とか其の内は存するとなし又人の眞價尊榮婦女の美性淑徳の斯る國民中に知られざる也故に余は云ふんとす吾人は仕方がないの語を用ゆるは充分注意せざるべからずと両親たるもの又教員たるもの此の語を口より滑らすべからず兒女學生をして此の語を用ひしむべからず前も云へる如く諸君の物質界に關しては此語を用ゆる至當あり而して吾人の會話に於て悔改失望を

表示するに用ゆる可なりと雖も是れより一步をも進むべからず人は「仕方がない」ものにあらずして仕方があるものなるを記憶すべきなり彼れは境遇によりて支配されずして己れを益せんためは境遇を制すべきものなり彼れは天則は奴隸の如くあるべきにあらずして自ら主人となり王となりて天則を利用すべきなり彼れの困難は遭遇して此れに屈撓し卑怯も仕方がないと云ふべきものにあらずして困難は打勝ち氣力を屈せずして仕方があると云ふべき也人の實は貴るとき能力を有すると凡夫も王公と異なるなし然れども仕方がないと云ふ人は己れの稟性を知らざるなり家庭に於ても社會に於ても弱人物として多くの人の器具とかり奴隸の如き生涯を送るものなり故に青年諸君よ宜ろしく此れを熟慮して此の有害なる語を用ひざる様注意すべし古今有名なる政治家英雄發明家文學家の言行録を一讀

せよ大凡そ世を動かして世の進歩を計り教育を盛んにしたるもの、實録を参考せよ彼れらの言語中曾て一透の「仕方がない」と云ふを聞かざるべし吾人が「スマイルス」氏自助論を讀むとき「吾等新鮮の勇氣熱心希望決心の勃興するあるを感ずるの抑も何故ぞや蓋し書中記録せる人物は非常なる困難に打勝ち千辛万苦を凌ぎて成功を奏したればかり吾人感ず此の如き人々の皆な仕方がある入あるを而して吾人彼等の伴侶たらんとを好む此れ余が聖經を愛する一理由なり聖經の吾人は教ゆるよ人の貴とを神の能力の吾人は與へられ惡しき習慣と惡しき境遇に打勝ちつとを得べきなりと聖書中一つも「仕方がない」の意あるなし故に熱讀するの價値ありと謂つべし

貧窶羸弱惡友惡弊の學生の大敵あり宜ろしく此等と打勝ちたるべか

らず而して此等の敵に對し仕方がない」と云ふもの決して此れらも勝つ能はざるあり只敗北——一生の失敗——其前よあるのみ新島先生の寫眞を一見せよ彼れの貧困にして身体羸弱多くの惡習ありたれども看よ如何ある人物と彼れのなりしか基督教主義より學校を京都に設立せんとするとき府民僧侶知事に至るまで彼れは反したり京都に基督教主義の學校を設立するよりも比叡山を琵琶湖に投する方易しとの數々耳よしたるの俚言なりし彼れの四方八方に反對を受けたれども決して撓まず失望せず仕方がない」と云ひたりし彼れの斷乎として亢立し柔和なる精神を以て世に處し遂に今日の京都同志社大學あるを見るよ至れり諸君の數々演説家の口より人は万物の靈長なるとを聞きしならん此れの大なる真理なり然しながら時としては辯士の口の片隅より人の万物の靈長なるの金言出で又他の片隅より卑劣を

る仕方がないの言進るとあり此の如く論ずる人の決して人民の先導者たると能のざるあり

余の日本國民の氣質の弱点を摘發せんと欲して此れを言ふよあらざるなり如何となれば余は此の國に數多の親友あり且つ此の國民の非凡ある歴史を愛し實に大望なる將來あるを信すればあり然りと雖も余思ふよ日本人の西洋人よりも多く仕方がないと云へり素より西洋諸國に於ても數多の仕方のないものありされども西洋の教育發明政体美術文學等に於ける進歩の決して此れ境遇なり自然なりと云ふよよりて説明せられざるなり其言や幾分か眞かりと雖も全体を解明する能はず吾等の凡て人の威嚴價值あるを信す又彼れの境遇に勝つて己れの奴の如くは此れを利用し得るとを信す故に仕方があると再言せざるを得ず吾人は天則を信すれども又天則の上に力あるを信

す而して人の其力を賦與せられたるを信するなり合衆國の民の毎二万余の新奇あるとを發明して專賣特許を得此の如きとの前後を省みず只仕方がないと云ふ民より出來せざるあり古今日本の英傑の困難は打勝ち實は善き模範を示すものと云ふべし諸君己れの器量能力に自任せよ決して己れを輕ろんずる勿れ何も爲す能はずと屈せる勿れ而して人をして只必然とか運命とかの下に制せらるゝ動物ありと唱ふる理學宗教を謹んで此れを感わさるゝと勿れ

第十四章 人の相場

相場と云ふ言葉の人々普通は稱する俗語にして或は米相場株券相場の相場或は何相場或は彼相場と日常耳にする所なれども未だ哲人の相場と云ふものあるを聞かず經濟學に於ては労働の市相場を論ず

るあるも人の相場を論ずるを讀みたるとなし
 抑も人間の價値の時勢の古今風習の差異開明の程度殊も人類天稟の
 才能實力を識るの如何は關するものとして恰も金剛石は於けるが如
 し若し暗愚野鄙なる者此の一片を河底の砂石中に見出すとせんか此
 れを手採り美麗にして光耀を發するが故に只此れを樂しむのみ決
 して其の實價を知らざるべし然れども文明の度漸やく進歩し民は一
 定の風習を形造り國の又一定の律法を組織するに至りては金剛石も
 其の價値を顯はし君主の衣冠を裝飾するに至れり又種々異様の形狀
 に破碎琢磨せられ人の眼を悦ばしひるゝ及んでや其の價益は貴とく
 なり莫大ある相場となるゝ至れり然りと雖も其の眞價は俗人の能く
 鑑定し得る所にあらざる也石炭は於けるも亦然り何れの國に於ても
 多少此の地層の存せざるのあし然るゝ近時に至るまで全く無益なる

不潔物の如くは擯斥せられ其の地層横はる土地の農作不適當として
 價値なく農夫の害物とまで稱せられたり然るゝ石炭の只は極寒に温
 熱を與ふるのみならず全世界の大器械を運轉するの大勢力を發起し
 万國民の通商貿易を以て聯絡し各國を汽船汽車の便を以て相接近せ
 しむるの功力あるを識るゝ至つてや石炭の價値も俄然一變したり現
 今ペンシルバニア洲に於て年々賣出す所の石炭は五千万弗の高額に
 達せり而して世界の石炭の其の價金剛石の比はあらざるなり
 此れに由て是れを觀れば人の相場も其の眞價——人の本性——を知るの
 如何は關係すること明らかなり歴政の古代に於ては僅々少數の者頗
 る尊とく貴とき者と思はれ無數の民の只奴隸の如く主人の自由を賣
 買せらるゝのみならず羅馬帝國驕傲を極めたる時を於てや富める人
 己れの奴隸を池中に投じて魚類の此れを食するを見客人を樂しまし

ひるを常とせり或の夜入りて奴隷の全身燈油を以て浸され園遊會
 場を照らすの燈とせらるゝとありたりき當時數圓を投じて一人の奴
 隷を買とを得べく美女に至つての頗る高價なりと云ふを聞くに至り
 ての慄然たるの感なき能はず其の残忍暴虐なる人而獸行なる惡慾惡
 行を犯する蓋し男女を禽獸と同一視し牛馬の如くは買ひし愛憎殺
 戮只主人の意の如くは取扱ひたるを以て極まれりと謂つべき也近世
 の有名なる探検者且つ慈善家なるリビンクス「ト」の亞非利加内地
 は奴隷買ひの跡を絶たんがため一身を犠牲に供したり其の人言へ
 るあり曰毒手は死したる奴隷の鬮を一行に並列せば其の長さは二
 万五千英里余に達し地球を一繞して尙は余りありと
 近頃又彼の有名なる探検者「スモンリー」氏の數く亞非利加内地を通過
 し「ピグミー」と稱する身の丈け漸やく三四呎なる小人種を發見したり

非常は墮落せる種族にして「スモンリー」氏試に其の羊鹿を屠殺して臍
 腑を投與したるは彼等の争ふて此れを取り洗ふとなく喜悅滿面而現
 のれ不潔物も悉皆食ひ盡したりと斯く最も墮落したる黒小人の市相
 場は果して如何惡逆非道ある白人の答へん彼等の無益の廢物なり捕
 へて以て奴とすべし然れば一人は付五十弗の利益あるべしと是の故
 は只利益の眼を大くし敢て正義を顧みざる輩多く亞非利加内地を蹂
 躪し彼れらが茅屋を焼拂ひ敵するものあれば忽ち殺し他の捕へて賣
 買せんが爲め拘引することを業とせり
 然りと雖歐米の國民の言へり斯くの如き極惡非道の商買連かに廢止
 せざるべからず「ピグミー」も同じく人なり決して牛馬の如く使役すべ
 からず其の價值の世界の富を以て計算すべからずと此の故は万国公
 約一本づき當時文明強國の軍艦は絶へず亞非利加の近岸を巡邏し若

百十二
し賣奴を營むものあらば直ち捕へんとせり何んぞや人の色の黒白を問はず軀の高低を論せず貧富強弱の差別なく皆な互に相関係あるものにして市場に鬻ぎ牛羊の如くは賣買すべきものにあらざると普通の世人の信ずる所となりたれば也
何れの國に於ても此の如く人に於ける下等なる思想の何れの時代に於ても此の惡弊を脱したりと云ふべからず抑も人の價値の其國其時を行へる、宗教の大關係を有するものあり印度に於て古への「ブラマン」教の説を聞く「太古「ブラマ」と云ふ神四種の民を生めり其の口より生れたるもの僧侶祭司にして神の子なり故に能く凡ての人を支配するの權あり清きものなり腕より生れたるもの兵士服より生れたるもの農工人足より生れたるもの最も卑劣なる奴として「ブラミン」の影もたも近づく

能はざるものなりと惟ふは何れの國に於ても最下等の人種に付するの名稱あり日本に於て人足と云ふ言の何れの世に起りたるや知る由なしと雖も兎も角或る人の神の頭より或る人の足より來れりと教ゆる宗教の必ず人足とか云ふ如き卑しき名稱を貴と人問に付するに至りたる也故に未だ男女が金錢によりて價値を定められ又此の如き賤しき名稱を人間に付する間人の眞價の識られざるものと云ふべし
一國の習慣及び貧賤の人の價値如何に又大なる影響を及ぼすもの也貧しき苦しむの両親の其の娘を苦海に沈め僅々なる金錢のため身を穢らしむ一女子の價或は數十弗あるとあり然れども此の如きことを聞き誰れか慚愧せざるものあらん
今や世界の民は人間たるものの金錢を以て計る能はざるの性と價を

備へたるものたることを識らんとするに至れり試み自由思想の發達を
見よ如何に歴史を極め賣奴を好むの國民中にも自由を愛するの熱あ
りて社會の匏種となり此の高尙なる思想を以て世人を感動せしむ
らずや素より斯る人々の非常の反對を受け歴史の紙上の爲めに血痕
を止めたりしよあらずや然れども眞理の最後の勝者よして今や自由
を重んずるの精神は文明改進黨の精神となり従つて人の眞價大に識
らるゝに至れり

然りと雖ども肉体上の自由より尙は貴ぶべく慕ふべきものあり何ぞ
や心靈上の自由是あり此の自由や言論の自由思想の自由及び信仰の
自由を包含するものあり今日改進黨主義の文明國が此等の自由を得ん
がためよの數代を重ね非常なる困難を経過したり而して未だ完全さ
る地位に達せずと雖ども今日の益々進んで益々高尙なる自由を得ん

と進化しつゝ、あるなり斯く歩一歩と進むに従ひ愈々明らかく人の靈
魂の貴重なるを識らるゝに至れり

斯く人の價値の騰貴と共に尙は左の思想の人の眞價を定むるゝ大な
る助を與ふるものなり若し人生長して五六十年の齡を重ね而して後
よ肉も靈も共に死滅するものあらば人の價は金錢上の價格より經過
せる能はざるや必せり然りと雖ども學術界の大進歩——進化法の新發
明の人の來生に存することを証し靈魂不滅を是認す基督の教の常々此
の点に重を置けり故に基督教の傳はる處先づ其國民をして一個人の
眞價を悟らしめ種族の階級賣奴の弊風歴史の政府を廢滅するに與か
つて大なる能力ありたり彼の有名なる説教家ピーナブル氏嘗て衣服襤
れ醜穢なる一少女を見彼れを抱き上げ此れに接吻したり何故に斯る
穢れたる小兒に接吻したるや問ひたるものありしよ答へて曰然し彼

の少女も朽ちざるの靈あり神の像も育りて造られたりと
「テラマ」教の如く階級を獎勵する宗教の人の眞價を教ゆると能はざる
なり基督は只獨りの眞なる鑑定者あり彼れの言の世は比なきなり曰
人若し全世界を得るとも其の靈魂を失ひ何の益あらんや人何を以
て其の生命易へんやと而して一人の價の全世界よりも尊きことを信
する國民の正義高尚有益なる法律を制定せんと志さずや必せり父母
たるものにして其の子女の神に肖せて造られ永生ありと信せば至心
全力を盡して其子女を教育し誠實親切清潔の實例を示さんとを願ひ
べし教育家として一書生の價の世界中にある金剛石よりも貴きことを
信せば尤も高尚なる道徳と品性を學生に薰陶することを務むべし神の
像も造られ永生を嗣ぐものなりと信する青年の無益の時間を消費せ
ざるべし不品行に陥らざるべし常々衆人の龜鑑となるべし嗚呼人生

の貴重なるかな

第十五章 教育者の責任

明治二十四年五月宮城教育會に於て演せし所なり

教育は熱心ある且つ經驗ある諸君と余は今諸君の前は有益なる説を
吐露すると能はずと雖ども自ら聊か經驗したることもあれば敢て一言
を陳して諸君の聖聽を煩はさんとす先づ余が經驗より簡略に陳れ
余の十六才の時、當つてや体軀矮少にして數々一書生と見誤まらる
る時、コンチンチカット洲にある或る一邑の學校教員に聘せられたり
茲に約定の年月間教育に従事したる后ニ、ニールンクに近き一つの私
立兵學校に轉じ教育の任を負ひ自ら大學校に入校する迄、茲に數年
を費やしたり其後余のニールンク大学のニールンク大學に在學中、該市々

會議事堂に於て市中の職工労働人等のため一大夜學校設置ありて余の該夜學校の長に推撰せられたり二ヶ年の間其の務に従事したりしが大學卒業の後一大兵學校の副校長たるの榮位に招かれたれども余が一生の基督教傳播のため犠牲とするの決心を爲したるが故に敢て此の命を辞したり

右の如き僅々少數の歲月間教育上の經驗よりして教員の責任に就き大に學びたる所あり即ち教育者の至大至要の事業に従事せり其の及ぼす所の感化限りなく其の務むる所の榮譽に於て其右に出づるものなきことを

故に今暫らく責任と云ふ字義に就き陳べんと欲す

古昔何れの國民中よ於ても義務責任を教訓するに當てや下の者賤しき者の上の者貴き者に種々の義務を負へりと云ふと常として上にあ

る者貴しき者が下よあるもの賤しき者は責任を負へりと教ゆると稀にして全くなしと云ふも不可なきが如し例へば儒教の教ゆる五常の道として五種の關係を見よ君臣の間に於て臣たるもの君の爲め危難を冒し且つ生命を捨つべきことを教ゆるにわらずや然れども君たるものも亦臣に對して義務責任ありて臣の爲め損するも可なり死をも恐れざるべしと教ゆることを思ひざるあり封建時代よ於て上よ在るもの下よある者よ何か爲さんと欲するときは何時も責任なき言葉を以てせり—惠を施す金を下賜する云々—然れども十九世期の今日よ於て責任の意義廣くなり新らたなる意を包むに至れり例へば責任内閣との何れの處よも聞く所なるが其の意他なし内閣を組織する貴顯紳士等の國民に對する義務責任を負へりと云ふよあり勿論其人等の皇帝陛下に對して責任あるとの改めて喋々するに及ばず今日國民各

百二十
 個の腦中よ存する大思想の他なし國務大臣の時勢を洞察し國民を支配するに際し四千万の日本國民よ對して責任あることを忘るべからず而して國民の大臣等が義務を義に従ひ盡すべきの責任を國民に負ふものあることを記せざるべからざる也
 親子の關係の責任の字義に於て新意を説明すべし
 古へに於てと凡ての義務の子女の身よ在る機教訓したり即ち子女たるものに従順あるべし凡そ命せられたる所よ従ふべしと此の教訓素より可なりと雖ども時として其度を失し或は愧すべく思ひべきの行を爲すべしと子女よ命するに至つての親たるもの過てり然れども子女たるものに従ふべからずと謂ふに至りてや益々過てり而して怪しむべきの妙齡の女子身を苦海よ沈むるとあるに當てや眞よ孝子なりと賞讃するを常とするよりあり嗚呼此の如き罪惡の全たぐ責任

と云ふことを理解せざるより來る也
 諸君の必す「ハールト・スペンソル」氏の教育論と云へる一小冊子を一讀せられしならん其第三章よ於て徳義的教育よ就て論せり其の一章中の一大思想の親たるもの其の子女よあらゆる義務を負へると也諸君の其篇を一讀して思ひぬ、ならん子の親よ對する義務殆んどなし却て凡ての義務の親たるもの、身よ負へりと實に此の如く吾人を思ひする程よ義務責任の字よ新らたなる意義を加ふるに至れり責任なる辭の古の只下等なる者より上等なる者若き者より年長の者のみよ對するの意なりしよ今や反對の教訓全地よ普ねく其の方向一變したり素より孔子の教ゆる如く子たるもの親よ對するの義務あり然れども又「スペンソル」の教ゆる如く親たる者其の子女よ對して尙一層大なる責任を負ふと明かなり

夫妻の關係の社會に於て責任の字義進化したるを示すべし古への女
 大學も教へし如く妻たるもの只従ふあり凡ての義務の只妻よ
 り夫に對するあり然りと雖も人の妻たるもの家の母たるもの
 只器具の如く奴僕均しき家庭の有様は開明進歩的の文明を來たす
 と能はざる也幸よして今代に至り責任に新らしき意義を合ひこと、
 かり今や夫たるものも免かるべからざる責任を其妻に負へるを承知
 するに至れり此の如く諸の關係に於て責任義務を字の双方より相
 對指する意を合ひ至り只より上より下に對するのみならず上より下
 より對すことを示すととなりたれば遂に人種階級の隔を毀つて一つ
 の結合し上に在つて權を執るもの下は在つて支配を受くるもの強さ
 もの弱さものも老たるものも若さものも賢者も愚者も互に相親和な
 らしむるに至るべし

以上列擧したる人倫の大關係に於て責任を字義の進化此の如く實
 際の進歩此の如くなれば教員生徒の關係も宜ろしく此の如く一變す
 べき也勿論只人數の多きは此の關係の大切なるを示すに足らざる
 や論を待たずと雖も日本に於て現今三百万の學生と七万余の教員
 ありて日々面謁對語して只教員等の學生に學科を教授せるのみな
 らず啓きたる心よ己れの精神を吹込み氣力徳力の種を其の心よ蒔き
 つゝあるを考ふるに至てや實に教育者の生徒に於ける關係はと大切
 あるもの他よなきとを誰れも承知すべきなり此の七万余の教員
 等の重き責任を負へると明かなり彼等の責任の決して俸給の出づる
 官廳に對して存するにあらすして寧ろ己等の薰陶養成せる三百万余
 の生徒に對して存せるや大あり實に此の教員等の將來の賢父賢母を
 養成しつゝあるなり國家を裨益する農工商の良民を養成しつゝある

精神の講話

也社會を組織する法律家政治家官吏醫師を養成しつゝあるなり故も其の責任の重大なりと云ひざるべからざる也
 以上陳述せる所頗る重く其關係や頗る大なれば余が主意のある所漠然たるの恐れあしとすべからず故に尙は教員等の責任ある所を明示せん爲め左に陳述すべし抑も其の責任たるや生徒は日々の學科を教ゆるのみならず勉強の方法を教示するのみにあらず又只立身出世の道を教ゆるのみにあらず此等は素より大切かり然れども尙は此等に加へて教員たるものとして各生徒の胸裡に高貴ある天性發達の端緒を認むるに至つては其の責任の何れにあるかを最も能く了解するなるべし彼の生徒の各々隱然存する高妙なる能力あるを認識するよあらずんば教員の知るべき己の責任を知り得ざるべし實に弱冠の童兒にも限りなきの才能隱微に存せり肉体素より注意を加ふべし

精神の講話

し然れども衷なる人我嬰兒も尙無限の價値あらしむるの靈魂を發達養成せるの教員の最大義務なり故に教員たるもの己れの貴き責任を識り且つ感ずるの多少の即ち生徒の價値靈妙なる靈魂の存するを了知するの如何は比例するに相違なかるべし
 余の或る時某校の一教員と親しくあり談話中學校教育事業の及ぶ余語つて曰學校教員たることを定めて愉快なるとなるべしと語未だ終らず某氏答へて曰否な々々小生の此の事業を嫌へり然らば何故も尙は教育の事業を取らるゝやと問ひたるよ別は生活の道なれば已を得ざる也と嗚呼余の願ふ此の如き教員の世に跡を絶たんと此の如き精神を以て教育をなすもの多しの貴とき生徒を害する也決して斯くの如き人物よ子女の教育を一任すべきよあらざる也此れ反して余の又數多の美談を聞きたるにあり有名なる科學家として其の

百二十六

教育上の勤勞は歐米ともに欽慕したる「アガッシー」氏嘗て一富人と語るとき其人曰「アガッシー」君知り給ふべし余の未だ青年のとき熟考したるとあり我れ教育家たらんか將た富める者とならんかと而して終る富人とならんと決したり今よして見よ社會よ於て己れの地位此の如く己れの感化力又此の如しと此の高言を聞きたる「アガッシー」氏の機を失はず忽ち語を返して曰余も青年の時同じく此の問題に接し教育者たらんか金貨をせんか二者何れを擇ばんかと大よ苦心したり而して終に幸よして教育者たらんと決せり看よ余の地位を見よ余の感化力を見よと實に教育者として其名聲天下よ轟きたる此の人の眞正の教育者たる者の榮位尊重なることを知り然れども富を以て誇りたる其の人の吾れ其の名をだよ記せざるなり學力より金力の優れりと大なる詐偽よして貴るとき人間の愧づべき俚言なりと云ひざるべから

百二十七

予諸君決して斯る卑屈の精神を抱くべからず諸君宜ろしく言ふべし學力の金力に優れると限りあしと余の嘗て有名なる演説家「ピーナ」ル氏其演説中言へるを聞けり曰此處に一人の襤れたる衣を着したる鼻垂れ小兒ありとせんよ誰れか此の小兒を抱て接吻するものあるや余の此れを爲し得るなり蓋し余の限りなく存する靈魂と貴重なる能性の此の小兒よも存することを思ふときの不潔なることも汚穢なることも皆々忘れて吾が手に抱くことを喜ぶなりと此の如く生徒各個よ天稟貴重なる性の存するあるを識る教員等は己れの責任の重大なるを知るべし而して此の如き教員等よして始めて全心全力を教育事業に盡すことを得るや必せり余の又外國人として或は諸君と異なり他よ責任ありと信す余の數々問ひれたるとあり君の能く語學初步を教ゆるに數多の時間と勤勞と

を厭はれざるか此れ實に煩わしきことよてのあらざるかと勿論若し只此の事のみを以て終極とささば決して堪ゆべからざるあり然れども余の外國の代表者あり日本の學生等を教育するの責を負へることを忘るゝと能はず推ふも今や空前の盛運に遭遇し東西の國民始めて近き親しまんとす而して交通の便は大に開けたり然れども此の交際をして完全なるものとならしめんよの東洋の民宜ろしく西洋の言語風俗を了知すべし西洋の民東洋の語學歴史を熟知せざるべからず斯く互の言語事情を相識るといふ萬國交通を全ふするの第一着要件と謂ふべし國民と國民と相互に言語の通せざるよりして五十年前以前鴉片戰爭の如きとの起りたるとあり畢竟するよ外國語に通せざると戦争の一原因たりしや疑ふべからず故に英語を教授するといふ東西の國民を親和し對當の條約兄弟の親愛を以て交通するよ至るの一助とならん

がためなり此一大目的なかりせば余は日本に於て教師たるを欲せざるなり
 教員諸君よ諸君も此れと等しき責任を負へり今日の人々忠君愛國とか國粹保存とか國家教育とか喋々論ずるの時也勿論學生に對して日本を愛すると愛國者たるを教ゆると必要ありと雖も諸君が狹隘固執の精神を以て此れを教へ攘夷的の意を帯びて猥り益なく外國人を猜疑する精神を養成し且つ西洋各國の長所を見ず好んで其短所を暴くをなさば諸君の實は津田三藏の如き者を養成するなるべし彼れの愛國と云ふことを誤解したり狹隘に陥りたり猥りよ外國人を疑ひたり故に大國の賓客に無禮を試みたり恐るべし謹むべし此の如き狹隘なる固執なる愛國者よ日本に耻辱を來すべし損害を來すべし故に諸君の此の天然の美國を愛するを教ゆると同時に今や萬國親和

百三十
せんとすることを是認し各國の長所を欽慕するの博愛主義愛國心を其の生徒に教へられんことを是れ余が聊か諸君に希望して止まざる所なり

第十六章 視官

五官の内殊に大切にして貴重なるもの視官と聽官たるや論を待たざるなり而して此の二官の用法如何を熟知せる人は非凡なる人物と云はざるべからず恐らく千人の内九百九十九人迄の其の價値と尊嚴なることを知らずと云ふも過言のあらざるべし千人の内九百九十人への盲目聾者と稱するも可からん蓋し彼れ等の基督がユダヤ人に対して言へる如く眼あれども彼等は見ず耳あれども彼等の聞かざるあり

學校の一大目的たるや學生をして此等の貴重なる天稟の賜物を使用するの道を教ゆるにあり教師をして此れを教ゆるの力量あるもの其の器量に應じて授業上に成功あるべし科學家の泰斗たる「アガツシ」の常は其の學生を教ゆるに彼等自己の觀察力を活用すべきことを以てせり故に氏の當世期の有名なる一大教育家と稱せらる彼れは學生の眼前に魚鱗の一片或は一石片を置き殆んど一時間余も此れを觀察せしめ然る後其の自ら見る所を記載せしむ斯くして後に「アガツシ」自ら學生に向ひ未だ見落したる所を示し多くの最も貴重なる智識が一昆虫一石片に隠存することを示すを常とせり
今觀察力を養成する方法の實例一二を左に枚舉せんは過る初夏の頃余が友ギョリキ氏來仙したるや余の同氏を諸君に紹介して一擲の講話を委託したり同氏の驚くべき視力を有し幼年の時より此の力を養

成することにより有名なる學者とこそいふべし、ギユリキ氏の「サントワ
 井ツナ島」は生れ見たりしとき、常は海濱に遊戯し種々異様な魚介
 を集めたり斯くて其の介類の異なる点を究めて部類を區別したり同
 氏の別は教師と仰ぐ人もなければ自己の眼を働かし凡ての介類を
 観察し而して凡ての介類の大小形状色合を論せず悉く右巻なること
 見出したり然るは彼れ思へらく介虫として若し左巻のものならばか
 とて非常な探索したれども數里の海岸に其一をも見ると能はざりき
 或日山中を跋渉しつゝあるとき圖らずも左巻の一介虫氏が注目を促
 せり氏の喜び言ひ方なく此れを拾ひ置けり然るは何程能く探索す
 ると雖ども再び右の如き介を見出せんと能はざりし故に氏は斷言して
 曰恐らく世界は左巻なる介の一種族あらざるなり遇々山中に見出し
 たるもの、只一定の法則外のものに他ならざるありと此の如く論定

して日本に數年を費やしたりしが嘗て新潟若松間を旅するときは氏
 の又左巻のものを見出したり其時に氏は前説を取消し以謂らく必ず
 や一種の左巻なる介類あるならん而して此れ大に進化論は新鮮の智
 識才料を與ふべしと遂に氏の己れの観察したる所を記して歐洲の一
 雑誌に寄稿したりやがて其一文紙上は現はるゝや歐洲は有る有名な
 る進化論者の或る探索と意見とを變更するの價値を有したり此の如
 く「ギユリキ」氏の己れの親官を巧く活用するところより歐米は其名を知
 られたり昨年のおかりき學術進化節の泰斗なる「チャールズ」ダルトン
 氏の實子英國の士官「ダルトン」氏來仙せるとき余は氏は問ふに日
 本は誰れか知人あるや否やを以てせり氏答て曰く宣教師「中」介類に付
 き有益なる發見を遂げたる「トクトル」ギユリキ氏を知ると「ギユリキ」氏
 數年前英國を漫遊したるとき彼國有名の學者等より歡迎せられたり蓋

し氏の視官を活用する方法を知り以て介類各種の關係を明らかにし
 歐洲進化論者の意見を變更せしめられたれあり故に己れの視官を活用
 することを學ぶ人の事物の深意を見己れの智力を増し己の喜ぶ大に世
 人を感動するの力量を増すなるべし
 吾人の眼の此れを正當に活用する時の眞に大切なる大なる事業
 の數々此の視官を關係するを示そ一例を近頃來着の一米新誌上
 見たり工學家ブルチルの「ロンドンに住し彼のテムス河底を通ずる
隧道を貫ぬかんとを常に希ひたり然るに岩石を徹鑿する器械を如何
よして製造せんかは甚だ困難なる問題にてありき此事を考へつゝあ
るとき遇々河中の小虫堅牢なる材木に穴を穿ちて巢を造るとあるよ
氣が付きたり彼れの怪しみ甚だしく此の如き小虫如何にして右の如
き働を成就するかと遂に顯微鏡の力を假り其虫を能く觀察したりし

に彼の虫の各々二個の小空管を備へ其の先きの小圓ある介ありて
 此れを廻轉して巢穴を穿つを見出したり遂に此の微少なる徹鑿管を
 模範として一器關を構造し以て彼の有名なる「テムス河の隧道を開
通したり此の大工事の十八年の永き年月と二十萬圓の大金とを費し
て成就するに至りたり
 俗此の「ブルチル」の一農夫の子よして別な教育あるよあらざれども巧
 みは視官を利用することを學びたり堅牢なる材木に穴を穿つの小虫を
 見たる人の他よも多かりしならん然れども此人よして眞に此の虫を
 見たり其の徹鑿器關を觀たりと云ふべし「サンドウキツナ」に於て介
 類を見たるもの千を以て數ふべし而して只此人のみ實に其の介を見
 其介を理解したりと云ふべし勿論諸君も悉く視官を活用するよより
 「ドクトルギユリキ」の如く「ブルチル」工學家の如く世に有名あるものと

なるべしと云ふよあらず然れども諸君が観官を活用するの度よ比し
事物を深く観察するを學ぶの度よ比例して諸君の喜樂能力及ひ感動
力も増加することを決して疑ふべからざるの眞理なり
尙ほ一步を進み諸君の注意を促すもの吾人の皆な肉体の五官の他
よ靈魂の五官を有するの一事なり余の此の一事を固く信じて疑ひざ
るなり靈魂よは目あり耳あるなり故よ切よ諸君よ勤む諸君が靈魂の
耳目を活用し己れの心中を観察せんことを此の事たるや左巻の介を見
出すよりも有名なる隱道を開墾するよりも優りて最と大切なり若し
諸君が靈魂の耳目を用ゆることを知らざれば決して自己を知ると能は
ざるべし天稟貴重なる器量を知ると能はざるべし自己を省みよ而し
て己れの貴とき天性を見よ又己れの誤失を見て矯正することを學べよ
而して靈魂の眼を用ゆることをせざるの國民の決して文明智識よ進歩

せず自由開明を知ると能はざることを記憶せよ此の如き國は壓政よ者
しめらるべし其民の種族の階級甚だしかるべし其の國の婦女の奴僕
視せらるべし故よ余の切よ諸君よ希望す諸君が靈魂の眼を用ひ自己
を識るとを學ぶよあざれば縦令幾分かの智識を得るも此れ決して
最良なるものよあざるとを忘るゝなきを古今万世よ於て最良なる
智識の靈魂の眼を活用して得る所のものなりと謂つべし

第十七章 世界中英語の勢力

今日世界よ最も廣く行われ最も勢力強き言語の英語なり今を統計學
者最近の調査よ依れば當十九世紀の初めよの

佛 語 三一〇〇〇〇〇〇人
英 語 二一〇〇〇〇〇〇〇

獨語

三〇〇〇〇〇〇〇〇

即ち其當時の歐羅巴の諸強國中、最も勢力の強きは佛蘭西語にて諸國の政治家が會議を開く等の場合、必ず佛語を用ひ何處に至りても一番通用のよかりしの佛語ありしあり然るに爾後時勢の推移と共に英語の次第の佛語獨語に打勝ち目今となりてハ

英語 一二五〇〇〇〇〇〇〇

獨語 七〇〇〇〇〇〇〇〇

佛語 五〇〇〇〇〇〇〇〇

即ち現時世界中、英語を話す者の數は一億二千五百萬人の多きに達し佛語を話す者の二倍強、獨語を話すもの二倍弱なるを發見すべし故に今日最も廣く行はれて通用のよきの英語に及ものなく英語をよくする者の世界中何處に至ても言語不通の不幸に遭遇せると稀あり

余の考ふる所を以てすれば此の勢に決して今日極点の達したるものゝあらず今後益々英語が世界各國に流行するとするべし而して斯く英語が勢よきもの如何なる原因によるやといふは凡そ三個の重なる事情あり試之を簡約に説明すれば

第一英國國民の最も熱心な殖民に勉強せる人民あり又た他の國民と争ふて皆打勝てり就中北亞米利加に於てハ其初め佛人のミシ、ツピ、河の兩岸に於てハ最も強大なる勢力を占められたれども英人の後より其間を押し入りて頻りに之と争ひ遂に佛人の敗北して今の合衆國を打建てたるも全く英人の力なり又た亞細亞に於ても印度は其初め専ら佛人の爲めに支配されたるものなれど是れ又た英人の佛人と争ふて遂に英人の勝利となり印度の全く英國の屬地となれり其他遠洲にあれ亞非利加洲にあれ地球に荷も未開の陸地あれハ英人は常に致々とし

て之が殖民に熱心從事し何時も最後の勝利最後の成功を得ざることなし而して其移殖せる人民の皆英語を話し其子孫も皆英語を話し其接近する所の他人種をも感化して漸次英語を學ばしむるに至れり故に現時英語の世界に流行する第一の元因は英國殖民地の多きが爲めなり

第二英語の最も自由思想を代表せる言語あり世界中英語の如く各人の自由各人の権利を重んずる言葉を多く使用せるものあらざるあり蓋し自由との決して我儘の謂ふあらず各人己の権利を重んじ之と同じ時他人の権利をも重んじ他人も自由を妨げられず他人の自由をも害せず階級貴賤の區別を打破りて各人皆自由平等ならしめんとするなり然るも最も早く此自由の思想を養ひたるは英人の腦髓にして此思想を傳播するも最も便利なるは英語なり若し自由の一大元理を研

究せんと欲せれば如何なる國の書籍言語よりも英語に就ひて研究するが最も大切なり彼のパトリック・ヘンリーが天我れ自由を與へよ自由を與へずんば我れ死を與へよと呼びたるが如きの即英語の神髓を表現したるものにして未だ曾て他國民の言語中に見ざる所なり要するも自由を好み権利を重んずるの人類天賦の性にして而て最も此思想に富みたるは英語なり是れ英語が世界各國に傳播して普く使用せらる所以の第二の元因なり

第三耶穌聖經を翻譯して普く人民に讀ましめたるは英語なり勿論佛蘭西もあれ西班牙もあれ經典の行れたれども皆羅旬語にして普通の人民をして之を讀ましめず然るも英國國民の獨り自由の大義に基き或の君主或の僧侶等の妨害あるに拘はらず飽までも自由の精神を精として宗教を推廣し各人信仰の自由を主張して毫も躊躇する所なかり

百四十二

しなり故に耶蘇教も亦た最も英語の力よりて世界に傳播せしなり
 以上の英語が非常なる大勢力を以て世界に傳播せし三個の主要なる
 元因にして今後とても此勢の益々増進し決して俄かに停止するとな
 かるべし斯く廣く世界の人の用ゐらるゝ英語なるが故に亦た如何な
 る國語と雖へども英語の如く實際に便利なるものあらず普ねく世界
 の大勢即ち文明の真相を知らんと欲せば英語を知るゝ如くいなし日
 本も既に國を開て萬國と交際し居る以上の今ま滿堂青年諸君の如き
 も決して究窟ある狭き心にての叶ひませぬ宜しく胸襟を廣闊にして
 世界中最も便利ある言語に通じ文明の眞理を理解するを勉むるが國
 家の爲めであらうと考へます余の本校に來りて諸君に英語を教ゆる
 と爰に五年諸君の孜々勉學せらるゝ、余の喜ぶ所なり今後も諸君の
 永く留校し學べるゝや否を知らざれども何處に行ても何卒此心掛け

は失ひぬ教致したきものあり

明治廿五年三月一日印刷

明治廿五年三月二日出版

發行兼印刷者

今村謙吉

大阪市西區土佐堀三丁目三十八番屋敷

筆記者

三宅荒毅

大阪市東區今橋二丁目四番屋敷

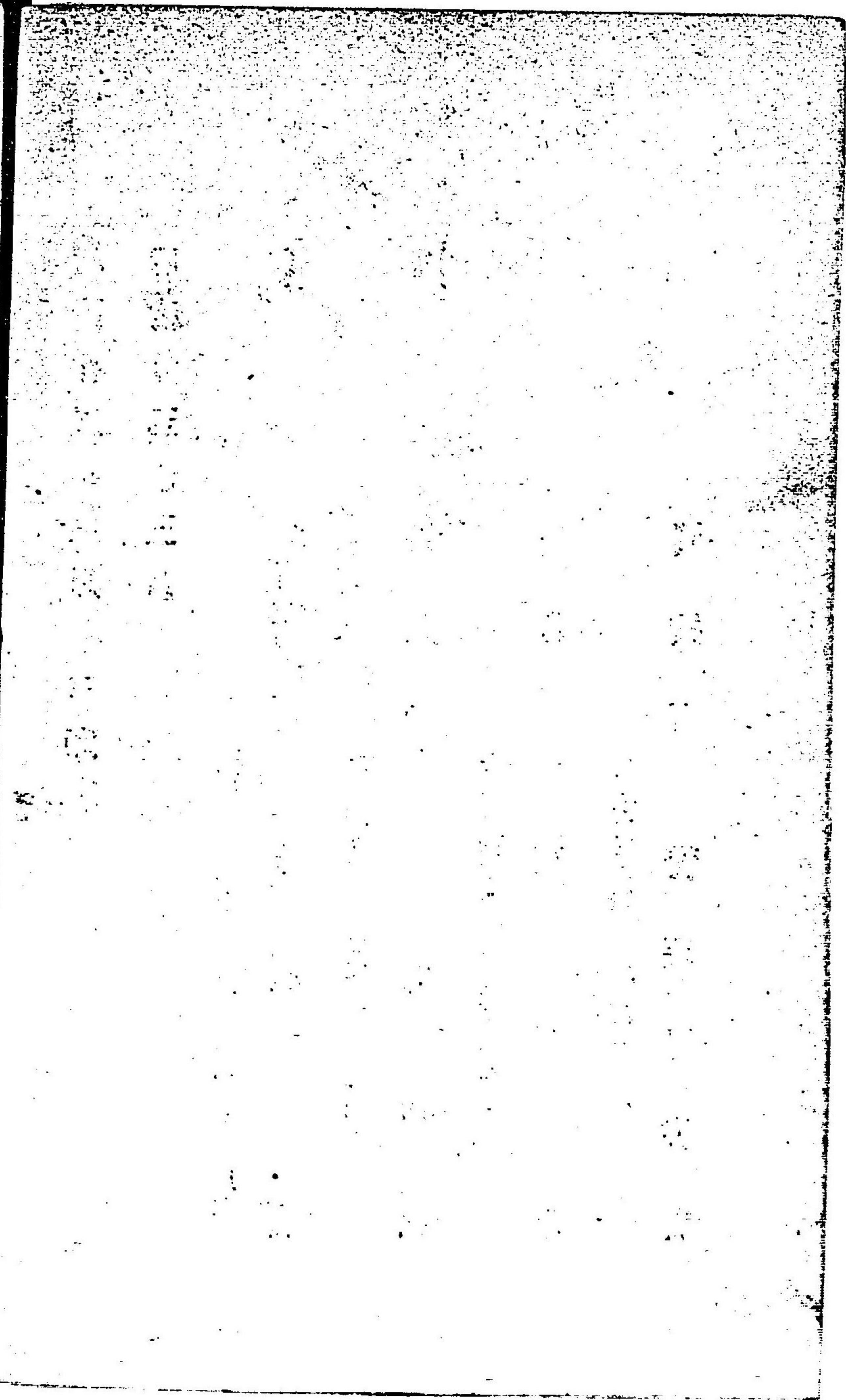
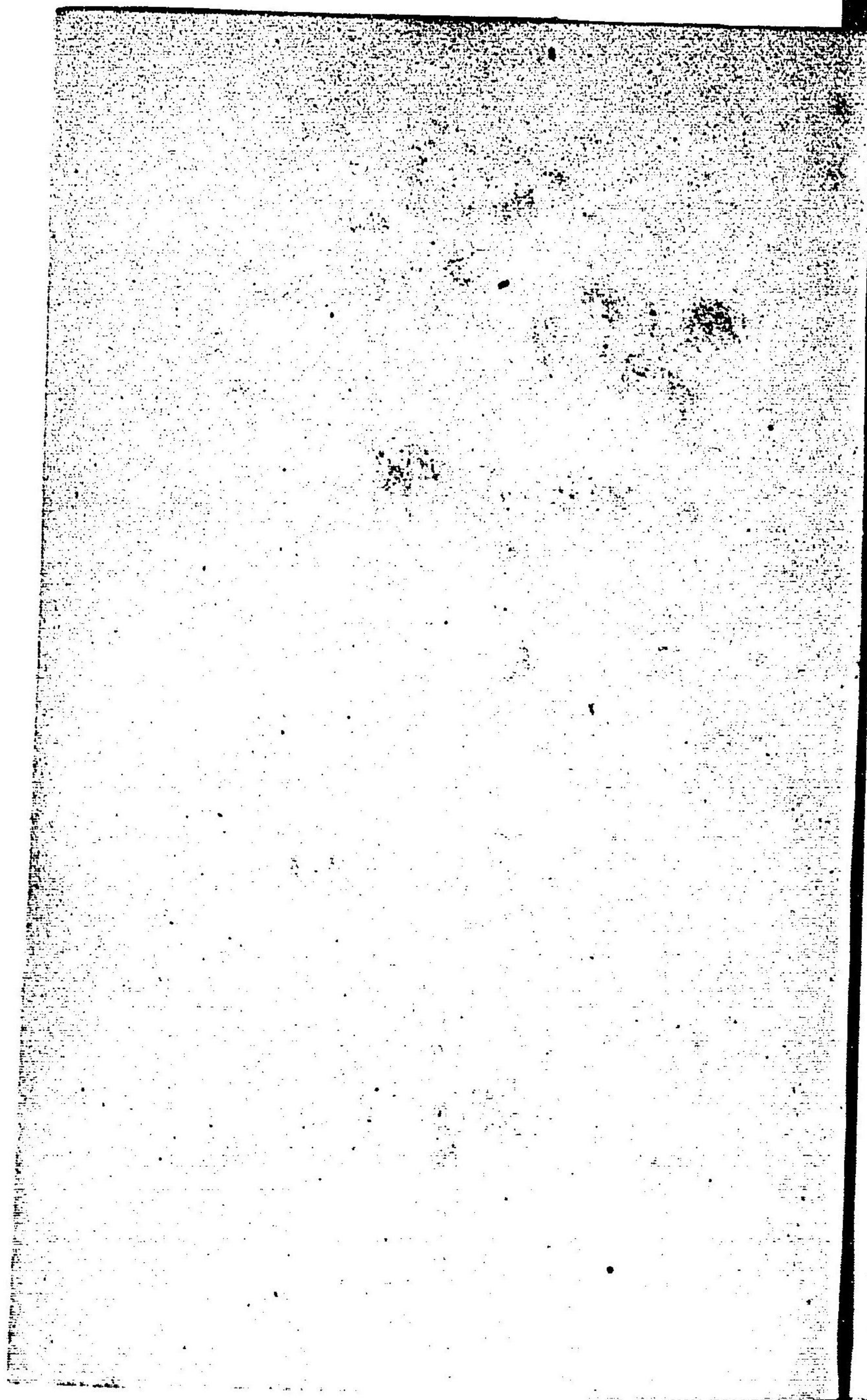
發行所

福音社

大阪市西區土佐堀三丁目三十八番屋敷

東京府日本橋區出雲町壹番地

賣捌所 警醒社書店



63
189

1950-1951

68

189

020919-000-8

68-189

精神的講話

ゼー・エチ・デホレスト/著

M25

ABI-0767



